

平成 19 事業年度

(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

業務実績報告書

独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

目 次

平成 19 年度に係る業務の実績	
1．業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置	… 1 頁
（1）業務の効率的処理	… 1 頁
経費の削減	… 1 頁
組織体制の再編等	… 3 頁
人材の有効活用	… 3 頁
第三者機関の意思の反映	… 3 頁
競争的な契約の拡大	… 5 頁
公園敷地の有効利用	… 7 頁
基金の運用	… 8 頁
2．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に 関する目標を達成するための措置	… 9 頁
【公園事業】	
（1）利用者に対するサービスの向上	… 9 頁
利用者のニーズの把握	… 9 頁
利用者のニーズへの対応	… 13 頁
民間の発想の活用	… 27 頁
入園者増加に向けた努力	… 30 頁
公園内の安全確保	… 38 頁
（2）環境保全への積極的な貢献	… 38 頁
（3）廃棄物等の縮減、リサイクルの推進、省資源・省エネルギー 対策などの環境保全に関する計画の策定	… 46 頁
（4）地域社会への積極的な貢献	… 49 頁
バリアフリー化の推進	… 49 頁
学習機会の提供	… 51 頁
地域の防災に関する施策への貢献	… 57 頁
【基金事業】	
（1）効果的な助成金の交付	… 58 頁
助成の対象	… 58 頁
助成の重点事項	… 65 頁
（2）助成金の交付に係る選考手続き等における客観性及び 透明性の確保	… 67 頁
基金事業審査会の開催	… 67 頁
申請者の利便性の向上	… 70 頁
基金の社会に対する浸透への工夫	… 73 頁

(3) 基金の管理及び運用における客観性及び透明性の確保	…74 頁
内部組織体制の整備	…74 頁
基金による運用益の使途の明確化	…74 頁
3 . 予算、収支計画及び資金計画に対する実績	…75 頁
4 . 短期借入金の状況	…76 頁
5 . 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、 その計画に対する実績	…76 頁
6 . 剰余金の使途	…76 頁
7 . その他財務省令で定める業務運営に関する事項	…77 頁
(1) 人事に関する計画に対する実績	…77 頁
職員の資質向上のための研修計画	…77 頁
人員計画	…78 頁
(2) 公園整備等に関する計画に対する実績	…78 頁
公園整備等に関する計画	…78 頁
施設及び設備に関する計画	…80 頁
 別紙 1 . 平成 19 年度日本万国博覧会記念基金事業 万博公園賑わい創出支援事業 (事業概要一覧)	…81 頁
別紙 2 . 日本万国博覧会記念基金事業審査会委員名簿	…82 頁
別紙 3 . 予算、収支計画及び資金計画の計画に対する実績	…83 頁
別紙 4 . 予算、収支計画及び資金計画に関する実績の経年比較表	…89 頁
別紙 5 . 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較表	…90 頁
別紙 6 . 公園整備等に関する計画の執行実績	…91 頁

平成 19 年度に係る業務の実績

1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置

(1) 業務の効率的処理

① 経費の削減

- 平成 19 年度の経費については、総費用が 3,300 百万円、総費用のうち一般管理費（人件費を含む。以下同じ。）が 2,566 百万円となった。

これを年度計画と比較すると、総費用は△372 百万円（△10.1%）、一般管理費は△79 百万円（△3.0%）となり、それぞれ年度計画を上回る削減となっている。

※ 平成 19 年度 年度計画：総費用 3,673 百万円、一般管理費 2,645 百万円

また、中期計画に定めた削減目標の基準となる平成 14 年度に対する経費の削減率についてみると、総費用は 28.8%（1,334 百万円）の削減、一般管理費は 22.4%（742 百万円）の削減となり、前年度に引き続き中期計画の最終目標である削減率（20%以上）を上回る水準となっている。

経 費 の 削 減 状 況 (単位:百万円、%)

事業年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
総費用	4,634	1,653	4,342	4,206	3,989	3,300
削減率	-	35.1	6.3	9.2	13.9	28.8
評価指標削減率	-	2.2 以上	6.7 以上	11.1 以上	15.6 以上	20.0 以上
一般管理費	3,309	1,298	2,655	2,593	2,550	2,566
削減率	-	18.8	19.7	21.6	22.9	22.4
評価指標削減率	-	2.2 以上	6.7 以上	11.1 以上	15.6 以上	20.0 以上

(注) 削減率は 14 年度に対する割合。15 年度は下期の計数であり、削減率は 14 年度下期との比較。

- 平成 19 年度における経費削減に向けての主な取組みは、以下のとおりである。
 - イ 前年度に引き続き、工事等の契約における競争的契約の徹底による工事費等の削減（約 272 百万円）に努めたほか、前年度までに行った受変電設備の改修や外灯の整備により管理費等の削減（約 912 千円）を図った。
 - また、井水を散水等に活用する井水活用施設の全面供用による水道料金の削減（約 3,637 千円）を図った。
 - ※ 工事費の削減額は、競争入札の実施による、設計金額と落札額（契約額）との差額である。

ロ また、民間のノウハウを活用してコストの削減を図るため、前年度に引き続き NPO 法人等に、企画提案書の提出を受け、業務内容の質的低下とならないよう十分留意したうえで、花壇管理業務や花園創出管理業務などの公園業務の一部（10 業務）を委託しており、利用者の立場等の観点からの公園管理が図られるものと期待している（コスト削減効果は、約 28 百万円）。

ハ なお、環境問題等への対応を図りながら、将来的な経費の節減にも寄与するものとして、毎年度計画的に行っている受変電設備の改修や外灯の整備を引き続き平成 19 年度も行った（いずれも平成 20 年 3 月竣工）。

ニ 人件費の削減については、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）第53条第1項の規定に基づき、平成22年度の人件費を平成17年度と比較して5%以上削減することとし、そのため中期目標期間が終了する平成19年度までに3.9%以上の削減を行うこととしている。この目標を達成するため、平成19年度は、業務のアウトソーシングにより定年退職（運転手）に伴う新規採用は行わず48名体制としたほか、超過勤務手当の上限目標額を設定し、その削減に取り組んだ結果、平成19年度の人件費は平成17年度と比較して5.1%（24,532千円）の削減となった。

ホ 平成 19 年度の職員と国家公務員及び他の独立行政法人の職員との給与水準（年額）の比較指標（ラスパイレス指数）は、対国家公務員 112.6（18 年度 111.9）、対他法人 104.8（18 年度 104.0）となっている。

給与水準については、本給の引下げ等国の給与構造改革に準じた見直しの実施に加えて、給与水準の検証及び適正化への取組を進めているところであり、平成 19 年度には、人事院勧告に準じた若年層における本給の引上げを行わなかった。

（参考）

対国家公務員ラスパイレス指数が 110 を超えていることの原因としては、平成 15 年 10 月 1 日に日本万国博覧会記念協会（認可法人）が解散し、独立行政法人日本万国博覧会記念機構として設立されたが、その際、独立行政法人日本万国博覧会記念機構法（平成 14 年法律第 125 号）附則第 2 条における「その一切の権利及び義務は、機構が承継する。」との規定に基づき、職員との雇用契約も基本的に機構に承継されたことから、職員の労働条件である給与水準は、旧認可法人のものが基になっていることが挙げられる。

② 組織体制の再編等

- 行政改革関連の動きを含めた機構に対する様々な要請・課題に的確かつ迅速に対応するとともに、これまでの事業の実績評価等を踏まえ、平成 18 年度に策定した「万博記念公園将来ビジョン」を着実に実現していくなど、限られた人員で新たな課題に対応できるよう、平成 19 年 4 月 1 日に 2 部 6 課 1 センターから 2 部 5 課 1 センターとする組織改正を実施した。

③ 人材の有効活用

- 職員の勤務実績及び職務に関する適性、能力等を評価し、その評価結果を人事異動、昇任等の基礎資料として活用するため、平成 15 年度に「勤務評価制度」を導入したところであるが、平成 18 年度の勤務評価から、評価結果を翌年度（4 月）の昇給に反映することとした。

平成 19 年度についても、勤務評価の参考とするために、担当業務に対する適性の自己評価や仕事に関する希望等について記載した「自己申告書」を全職員から提出させた。これを基に全職員について平成 19 年 8 月に第一次・第二次評価者による面談を行い、職員の資質・能力の向上が図れるよう指導・助言を行うとともに、職員の希望や意向を聴取し、平成 20 年 3 月に、実績、能力、取組姿勢の 3 つの観点から 5 段階評価を実施した。この評価結果については、平成 20 年 4 月の人事異動、昇任、昇給に反映することとしている。

なお、上記面談時においては、前年度の勤務評価結果について希望する職員に開示を行った。

- 「中期研修計画」に基づき「平成 19 年度研修計画」を策定し、業務に関連した専門知識やノウハウの習得・向上を目的とした研修等の充実に努めた。
また、職員の能力開発のため、業務に必要な資格取得を推進しており、平成 19 年度は職員 1 名が「樹木医」の資格を取得した。

④ 第三者機関の意思の反映

- 第 6 回評議員会を平成 19 年 7 月 11 日に開催し、機構の業務運営に関する幅広い意見等を聴取した。各委員からの主なご意見は下記のとおりであり、実施可能なものから順次事業の運営に反映させている。

第6回評議員会 評議員からの主なご意見とその対応状況

ご意見	対応状況
<p>花のイベント等の広報活動について、情報提供の切り口を変えて充実させ、集客力を高めてはどうか。</p>	<p>園内でのチューリップやヒガンバナ等の植付けについて、一般来園者や老人クラブ、小学校、身体障がい者などの参加を得て実施しており、これらの取組状況についてマスコミ等に情報発信している。</p> <p>また、NPO 法人に委託している「広報活動支援業務」において、万博公園のイベントキャンペーンやホームページ等による活動を強化し、集客力を高めるように努めている。</p>
<p>機構が取り組んでいる森の再生事業は、東京のほうではほとんどの人が知らない。</p> <p>環境保全や自然林復活の動きが全国的なものとなってきているなかで、全国の森の再生の中心になっていけば、機構の存在価値も非常に高くなる。</p> <p>例えば、機構の森の再生事業が単に公園の中だけの自然の再生ではなく、全国的なネットワークの一環としてやっているという印象を与えることができれば、非常に良いのではないかと思う。</p> <p>その点について、サミットのような会合の開催やホームページ上での働きかけを工夫してはどうか。</p>	<p>大学・研究機関・NPO 法人等と連携を図りながら、多様な動植物が共存する「自立した森」の実現を目指し、様々な取組を長期的かつ計画的に実施している。</p> <p>当機構としても、これらの取組を広く国民に情報発信していくことが重要と考えており、以下のような取組を行っている。</p> <p>「自立した森づくり」の取組を機構発行の季刊誌『森発見』において連載し、東京・大阪の大規模書店で販売しており、第9号(3月末発行)からは誌面を刷新し、森づくりのみならず、環境保全の取組等に関する新企画を取り入れて内容を更に充実させる。</p> <p>また、平成18年6月には、万博公園で開催された「森林の再生と創造」に関する国際シンポジウムの案内が、景観・生態工学国際学会連合(ICLEE)のホームページで発信された。</p> <p>さらに、放送媒体の面でも、平成19年10月には、全国350のネット局に加盟し420万世帯が視聴している衛星放送「スカイA」で放映した。</p> <p>今後とも、インターネットの有効活用等により、森づくりや環境保全の取組等について情報発信してまいりたい。</p>

<p>オオタカが園内で生息することが可能になったのは、森の再生に関連して非常にPR効果があり、ぜひ活用されればよいと思う。</p> <p>また、これをきっかけにしながら積極的に森の再生事業のイニシアチブをとれば、万博公園の存在意義は非常に大きくなるのではないかと。</p>	<p>平成19年に当公園で初めてオオタカが営巣し、無事巣立ったことは、万博公園の森が里山に近い豊かな森になってきている一つの指標である。</p> <p>これをマスコミ等に情報提供することは、自立した森をアピールする絶好の機会であると思われるが、他方、単にトピック的に公表すると、密猟者の出没やカメラマン等の殺到が予想され、今後の営巣等に影響を及ぼす恐れがあるため、情報提供の手法等については、専門家による解析や総合評価等を行い、その結果を踏まえ慎重に対処していきたい。</p>
<p>NPOをはじめとした様々な主体と連携して自立した森の再生事業に取り組んでいることは、万博公園のシンボルの事業としてふさわしい内容であるし、吹田市も環境先進都市を目指して行政に取り組んでおり、非常に期待すべき事業であると思っている。</p> <p>万博公園の環境の取組と吹田市のまちづくりが連携できれば、地域全体にとって広がりを持った環境の発展ができるのではないかと。</p>	<p>地球温暖化やヒートアイランド現象等の今日的な環境問題に対応し、循環型社会の形成に資するため、大学・研究機関等と共同で様々な調査研究等を計画的に実施している。</p> <p>これらの調査結果等を基に、都市圏の大規模緑地である万博公園の緑が持つ効果や社会的役割について、地元吹田市やNPO法人等と連携し、来園者をはじめとする一般市民にわかりやすいかたちで普及、啓発を行っていきたい。</p>

⑤ 競争的な契約の拡大

- 平成19年度における競争的な契約の実績割合は、「整備業務」が99.2%（平成18年度実績98.7%）、「管理業務」が75.7%（同73.9%）で、この結果、契約全体では83.6%（同87.1%）となり、中期計画の目標（80%以上）を上回った。

競争的な契約の割合

	14年度 (独法化前)	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
整備業務	89.4%	98.2%	96.1%	95.4%	98.7%	99.2%
管理業務	51.8%	69.0%	74.0%	73.4%	73.9%	75.7%
全体	65.3%	78.4%	85.7%	86.0%	87.1%	83.6%

(注) 1. 15年度は下期の割合。2. 当該年度支出額で算定している。

- 公園の整備業務については、緊急工事等を除いてすべて競争入札により契約を締結することとし、管理業務についても、入札することによって業務に支障が生ずる

などの事情がある業務以外は、競争的な契約の徹底に努めることとした。

また、随意契約の適格性を1件ごとに審査するため、平成16年度に「随意契約適格審査会」を設置（平成16年12月1日）し、平成19年度は、審査会を24回開催し、延べ39件（不落随契及び平成20年度契約分を含む）の事案を審査した。

- さらに、平成19年11月には、随意契約の透明性、競争性の向上を図るため、新たに公募手続及び企画競争手続の制度を導入し、「企画競争実施委員会」を設置し、同委員会において、公募手続における契約相手方の特定及び企画競争手続における企画提案書の特定を行うこととした。

平成19年度は、同委員会を7回開催し、11件（平成20年度契約分を含む）の公募及び企画競争事案について審査した。

- 随意契約の適正化については、国の取組を踏まえ、「随意契約見直し計画」を平成19年12月に策定した。その内容は、平成18年度に締結した随意契約について点検・見直しを行い、随意契約によることが真にやむを得ないものを除き、順次、一般競争入札等に移行することとしたものである。

【随意契約見直し計画】

		平成18年度実績		見直し後	
		件数	金額	件数	金額
事務事業を取り止めたもの（18年度限りのものを含む。）		/		(25.6%) 10件	(31.3%) 271百万円
一般競争入札等	競争入札			(15.4%) 6件	(37.2%) 323百万円
	企画競争	(10.3%) 4件	(1.0%) 8百万円	(48.7%) 19件	(18.0%) 156百万円
随意契約		(89.7%) 35件	(99.0%) 859百万円	(10.3%) 4件	(13.5%) 117百万円
合計		(100%) 39件	(100%) 867百万円	(100%) 39件	(100%) 867百万円

また、この計画の平成19年度末時点における随意契約の点検・見直しの状況は、次表のとおりである。

区 分		件 数	金 額
平成18年度随意契約		39件	867百万円
平成19年度実績分	事務事業を取止め	13件	277百万円
	競争入札に移行	5件	140百万円
	企画競争等を実施	2件	4百万円
平成20年度以降計画分	事務事業を取止め	2件	7百万円
	競争入札に移行	8件	197百万円
	企画競争等を実施	5件	125百万円
随意契約によらざるを得ないもの		4件	117百万円

今後とも、契約の透明性、競争性の向上を図るため、新たに導入した公募手続及び企画競争手続の活用とともに、競争入札の徹底に努めることとしている。

- なお、真にやむを得ないものとして、平成19年度に随意契約としたものには、「樹木造形剪定業務」がある。

当該業務は、日本庭園を昭和の名園として、その美観を維持していくために樹木の剪定・整枝等を行うものであるが、この業務は、現場に精通し、一貫した樹木管理の経験と匠の技をもつ職人による管理が不可欠なものであることから、そのような職人を安定的・計画的に投入できる業者に委託したものである。

- 競争的な契約及び随意契約の件数、契約金額については、次表のとおりである。

		平成19年度実績	
		件 数	金 額
競争的な契約	一般競争入札	64件	998百万円
	企画競争等	18件	77百万円
随意契約		24件	210百万円
合 計		106件	1,285百万円

(注) 少額随意契約については、記載の対象としていない。

⑥ 公園敷地の有効利用

- 管理区域内の未利用地については、一部を社会福祉施設の用地（約8,000㎡）として、平成19年3月に1,848㎡（保育所）、同年11月に2,941㎡（介護老人保健施設）、平成20年2月に3,221㎡（特別養護老人ホーム）の定期借地権設定契約を締結した。

また、その他の未利用地については、民間の不動産関連業者に貸付先の仲介を委託し、分譲マンションモデルルーム用地 (1,314 ㎡) として一時貸付を行ったほか、社会福祉施設用地 (1,765 ㎡) として、事業用定期借地権設定契約を締結し、土地の有効活用を図るとともに、将来の安定的な収益の確保に努めた。

- 造園建設系の専門学校（大阪市内）から、公園外周部における校外学習の受入れの依頼があり、学校教育への寄与等の観点から許可することとし、平成19年度は、樹木剪定や花壇除草の実習（7回）のために敷地を開放した。

⑦ 基金の運用

- 日本万国博覧会記念基金（以下「基金」という。）の運用に当たっては、長期金利が低位で推移する厳しい運用環境の中、安全・確実性を前提に、流動性の高い 10 年物国債、地方債を中心に運用を行うとともに、キャッシュ保有割合を縮小しフルインベストメントに努めるなど、運用益の確保に努めた。

キャッシュ保有割合については、平成 19 年 4 月に開催した債券運用会議で定めた「基金のキャッシュ保有割合を低減する」という目標の達成に向けて、助成金の支払い状況を踏まえながら努力した結果、平均残高で、平成 18 年度の 1.19% (223,525 千円) から平成 19 年度には 0.61% (115,818 千円) にまで低下させた。

- 平成 19 年度中に満期償還となった 15 億 8,210 万円 (平均利回り 1.98%) を合わせて再運用し、地方債、財投機関債等を 18 億円 (平均利回り 1.88%) 購入した。

再運用に当たっては、債券の購入時期、種類等に配慮した。

この結果、平成 19 年度に再運用したものの平均利回り (1.88%) は、新発 10 年物国債の平均利回り (1.66%) を 0.22% 上回った。

- 基金の運用状況は次表のとおりである。

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
運用収入額	462 百万円	409 百万円	353 百万円	329 百万円	328 百万円
運用資金平均残高	18,797 百万円	18,804 百万円	18,787 百万円	18,830 百万円	18,871 百万円
平均残高利回り	2.46%	2.18%	1.88%	1.75%	1.74%
キャッシュ保有割合	6.44%	4.04%	1.72%	1.19%	0.61%

(注) 運用収入額には、償却減価額、未収利息等を含んでいない。

2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

【公園事業】

(1) 利用者に対するサービスの向上

① 利用者のニーズの把握

- 理事長の諮問機関として、第6回評議員会を平成19年7月11日に開催し、公園運営全般にわたる意見を聴取した。
- 日本万国博覧会開催40周年（平成22年3月）に向け、鉄鋼館を日本万国博覧会の記念館として公開することを計画しており、その基本構想を策定するため、学芸員、民間有識者、博覧会の愛好者等によるアドバイザー会議を平成20年3月14日に開催し、展示構想や運営方法等について幅広い意見を聴取した。
- アンケート調査については、四季折々のイベント開催時及び行楽シーズンに「来園者アンケート調査」を実施するとともに、非来園者の潜在的ニーズをも把握するため「機構ホームページで行うアンケート調査」を実施した。

【来園者アンケート調査結果】

- ・四季折々のイベント実施時の調査は、花の見頃等に合わせ、来園目的、イベントの満足度、イベント情報の入手方法、来園者の年齢、居住地などを設問内容として、年13回実施し、延べ2,481名からデータを得た。その概要は、次表のとおり。

項 目		割 合	項 目		割 合
来園者年齢別	30代	18.4%	来園同行者	家族・親戚	61.7%
	60代以上	17.5%		ひとり	14.3%
	40代	12.1%		友人	13.0%
来園地域	北摂地域	55.6%	来園状況 (これまでの来園経験)	ある	79.8%
	上記以外の 大阪府	18.0%		ない	18.1%
	その他の 近畿圏	4.5%		無回答	2.0%
イベント 満足度	よい	60.7%	イベント再来園 意向	また来たい	82.1%
	ふつう	20.5%		来たくない	1.7%
	よくない	7.0%		無回答	11.3%

※全イベントの集計結果(割合は上位を記載)

※「北摂地域」：吹田市、茨木市、豊中市、摂津市、箕面市、高槻市、池田市の7市を指す

➤イベントに参加している年齢別の上位は30代で、次いで60代となった。

➤イベントの満足度では、「よい」・「ふつう」を合わせると81.2%と、ほとんどの

方が概ね満足されており、この結果が再来園の意向にもつながっていると思われる。

- ・行楽シーズンにおける調査は、4月15日（日）、4月21日（土）、5月3日（木・祝）の3日間に、自然文化園の4か所のゲートにおいて実施し、総数1,160名のデータを得た。その概要は、次表のとおり。

項 目		割 合	項 目		割 合
来園回数	10回以上	59.4%	イベントの情報 入手源	公園だより	41.1%
	2～3回	13.1%		ホームページ	27.8%
	4～6回	12.8%		テレビ・ ラジオ	14.6%
来園地域	北摂地域	26.4%	施設の認知度	芝生広場	66.9%
	上記以外の 大阪府	24.2%		花の見所	66.0%
	その他の 近畿圏	45.0%		日本庭園	63.4%
来園目的	花の観賞	42.2%	希望する新規イ ベント	納涼祭り	43.0%
	散歩・健康 増進	31.2%		野外ミニコ ンサート	35.5%
	子どもを遊 ばせるため	29.1%		自然文化園 クリスマス	29.8%

※全調査日の集計結果（割合は上位を記載）

- 万博公園に10回以上来園されているリピーターの割合が、平成19年度では59.4%（参考：平成17年度は28.3%、平成18年度では51.3%）と高い伸び率を示している。
- 平成19年度の春の調査結果では、北摂エリアが26.4%に減少し、北摂地域以外の遠方から来園される方が69.2%となった。（参考：平成18年度における秋の来園者調査では、北摂エリアの居住者が57.2%）
- イベントの情報源で大幅な伸びを示したのは「テレビ・ラジオ」で、前年度に比べ約3倍（参考：平成17年度は7.6%、平成18年度は4.3%）の伸びとなった。

【機構ホームページで行うアンケート調査】

- ・機構ホームページにおいて、平成19年6月5日から8月3日までと、平成20年2月20日から3月4日までの2回、実施した。
- ・調査内容は、機構が毎月発刊している『万博公園だより ECo-Park』の紙面構成についての満足度、入手手段などを聞くとともに、ホームページのページ構成についての満足度、アクセス目的などに関するもので、延べ517名からのデータを

た。その概要は、次のとおり。

[万博公園だより]

- ・『万博公園だより』の紙面構成では、70%の方が満足されていた。また、人気の高い記事としては、「トピックス」が36%で、「イベントガイド」が26%となった。充実して欲しい内容としては、「花の詳しい情報」や「'70年大阪万博」であった。

[ホームページ]

- ・機構ホームページの利用頻度では、73%の方が月数回以上利用していた。また、利用目的としては、「イベント情報」の入手が83%、「花情報」の入手が66%となった。今後充実して欲しい内容は、「イベント情報」が75%、「花情報」が55%であった。

【年齢別カウント調査】

- ・以上のアンケート調査のほかに、自然文化園の入園者の年齢別分布を把握するため、前年度に引き続き、平成20年3月の休日（2日・9日）と平日（4日・6日）の4日間、自然文化園の全ゲートにおいて「年齢別カウント調査」を実施した。その概要は、次表のとおり。

項目	平成19年度		平成18年度	
	男	女	男	女
調査日数	4日（休日2、平日2）		4日（休日2、平日2）	
調査日	3月2日（日）、4日（火）、6日（木）、9日（日）		10月29日（日）、11月10日（金）、18日（土）、3月2日（金）	
延べ入園者数	38,991人（うち休日32,151人）		32,846人（うち休日26,027人）	
男女別入園者数	男	女	男	女
	17,976人	21,015人	15,440人	17,406人
	全体比率 46%	全体比率 54%	全体比率 47%	全体比率 53%
休日の最多順年齢比率	20・30代	30.6%	20・30代	36.4%
	40・50代	26.8%	40・50代	24.6%
	60代以上	20.3%	60代以上	15.3%
平日の最多順年齢比率	60代以上	39.8%	10代	30.9%
	10代未満	28.5%	60代以上	28.4%
	40・50代	17.0%	20・30代	14.2%
全日数延べ 最多順年齢比率	20・30代	27.5%	20・30代	31.8%
	40・50代	25.1%	40・50代	22.3%
	60代以上	23.7%	60代以上	18.0%

➤平成18・19年度における来園者の年齢別調査の結果、休日の場合は、20・30

代が最も多く、次いで 40・50 代、60 代以上の順となった。これは、万博公園の周辺でマンション分譲が続いており、これらの入居者で若い世代層が家族で来園されていること、また、20・30 代層で花の観賞人口が増加してきたこと、公園東地区にある遊具や変り種自転車、広大な芝生等で遊ぶ来園者が増えてきたことによるものである。

また、平日は 60 代以上と 10 代未満が上位を占めており、定年を迎えた団塊世代や老夫婦と孫の家族連れなどが、花の観賞や遊具の利用などに来園されているものである。

- これら様々な調査結果を踏まえて、公園の施設利用におけるサービスの改善、業務の見直し、新規事業の開拓などに反映できるものは逐次反映し、来園者の満足度の向上に努めることとした。

【平成 18 年のアンケート結果を受けての対応】

- ・「来園目的」で、20 代から 60 代以上までの年代層で一番多かったのが「花の観賞」であったため、前年度に引き続き花の見所整備として「世界の森」の春花（ルピナス）が終わった後、夏花（ケイトウ、ルドベキア等）の植栽を新たに行った。
- ・万博公園のイベントなどの情報入手方法では、近年ホームページによるものが増加してきたので、ホームページの専属オペレーター（派遣社員）による、見やすいページ構成とタイムリーな情報発信に努めている。
- ・万博公園では、一般市民参加の下、「みんなでつくる万博公園」を目指しているが、アンケート結果から NPO 法人が主催する自然体験型の募集活動の広報が手薄のため、『万博公園だより』の紙面構成や掲載位置を工夫した。
- ・自然の森再生事業の取組について、「知らない」と答えた方が 75%おられたことから、現在実施している「自立した森づくり事業」の啓発活動のため、メディアに機会あるごとに情報発信を行うとともに、機構発行の『森発見』にも、これらの取組を紹介した。また、『万博公園だより』3月号（19 万部発行）においても、森づくりや環境保全への取組を掲載した。

【平成 19 年のアンケート結果を受けての対応】

- ・ホームページのアンケート結果から、『万博公園だより』の紙面を充実して欲しいとのニーズに応えるため、「花の詳しい情報」や「'70 年大阪万博の情報」を紹介した特集紙面を設けた。
- ・万博公園の新規施設として最も要望が多かった「四季折々の花のみどころ整備」に応えるため、水すましの池周辺に原種シクラメンの花壇を設置した。
また、「風雨をしのぐ休憩所の増設」とのニーズに応えるため、自然文化園バーベキューコーナーや自然観察学習館新館の屋根を増設するなど、防風防雨対策工事

を行った。

- このほか、園内各ゲートや総合案内所に寄せられた来園者等の声についても、業務運営に反映できるものは早期に対応するように努めた。

来園者等の声と対応措置（主なもの）

来園者等の声（要約）	対応状況
Jリーグの試合終了後、日本庭園前駐車場から出庫するのに、長時間を要したので、改善して欲しい。	出庫ゲートを1か所から2か所に増やし、混雑を回避した。
森の足湯を利用するため営業終了時間の5分前に「足湯の施設」に到着したが、利用できなかった。受付終了時間の周知がなされていない。	『万博公園だより』やホームページ、各ゲートに、利用期間・時間などの情報を掲載・掲示した。
早朝観蓮会に参加した際、カメラマンの三脚が園路を占拠しており、他のお客さんの通行の支障となっている。何らかの対応を望む。	はず池周辺に、カメラマンのマナー意識を喚起するサインを設置した。
日本庭園の標識が少なく、わかりにくい。	庭園にふさわしい木製サインを設置した。

② 利用者のニーズへの対応

- 近年、社会経済情勢が大きく変化し、少子高齢化社会が進展するなか、平成18年度に策定した「万博記念公園将来ビジョン」における「人と自然との共生」、「人と人との交流」の基本理念のもと、余暇の多様化や健康増進に適応できる都市型公園としての機能拡充を図ることとした。

具体的には、利用者ニーズを踏まえ、平成19年度では日本庭園・自然文化園内の四季折々の花の開花等に合わせた、利用者等に人気の高い季節イベントを連続的に実施したほか、基金で助成する「万博公園賑わい創出支援事業」と連携し、携帯電話を使って自然文化園を巡るネイチャーラリー、冬季（クリスマス）の夜間開園におけるイルミネイト万博、星野仙一氏が塾長を務めるスポーツ団体の少年野球大会、国際交流による相互理解に寄与する「日露交歓コンサート」や、世界14カ国から来日した学生たち「ワールドキャンパスインターナショナル」との交流イベントなどが、申請者によって新規に実施された。

平成19年度は、可能な限り新規イベントの導入に加え、来園者の参加が得られる参加型イベントも行った。

季節のイベント等(開催順)

[持込みイベントを含む]

イベント名・開催期間	開催場所・イベント内容	入園者・利用者数等 ()は前年度数
<p>桜まつり</p> <p>3月28日(水) ～4月11日(水)</p>	<p>自然文化園「東大路」、「桜の流れ」の2会場を主会場として開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜の満開が続いたため、当初予定より3日間開催期間を延長した(2,453人:3日間の夜間入園者数) ・「東大路」会場で桜のライトアップと夜間公開を実施 ・「夢の池」のほりでは花火実施(2日間) ・「東大路」周辺では「全国大陶器市」を会期中4/8まで実施 	<p>自然文化園</p> <p>198,903人 (197,962人) 対前年比+0.5%</p> <p>うち夜間入園者 18,580人 (21,505人) 対前年比 ▲13.6%</p>
<p>春の山野草展</p> <p>4月1日(日) ～4月8日(日)</p>	<p>日本庭園内「園芸植物展示場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スミレ類、サクラソウ、ニリンソウなど445点の春の山野草を展示 ・即売会や栽培相談コーナーなどを設置 	<p>日本庭園</p> <p>19,805人 (20,171人) 対前年比 ▲1.8%</p>
<p>チューリップフェスタ</p> <p>4月5日(木) ～4月15日(日)</p>	<p>自然文化園「チューリップの花園」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約5,000㎡の会場には「レッドエンペラー(赤色)」、「プリシマ(白色)」、「イエロープリシマ(黄色)」など約12万本が開花 ・会場前のレストランでは期間限定の「チューリップランチ」等を提供 ・日曜日には「フワフワ太陽の塔」を設置、681人の子どもたちが利用した 	<p>自然文化園</p> <p>155,324人 (144,177人) 対前年比+7.7%</p>
<p>ポピーフェア</p> <p>4月14日(土) ～4月30日(月・祝)</p>	<p>自然文化園「花の丘」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジ、ピンク色のアイスランドポピー35万本と淡いブルー色のネモフィラ約8千本が開花 ・日祝日には「フワフワ太陽の塔」を設置、663人の子どもたちが利用した 	<p>自然文化園</p> <p>128,596人=17日間 (278,300人=28日間) 対前年比 ▲53.8%</p>
<p>鯉のぼりを 上げよう</p> <p>4月14日(土) ～5月6日(日)</p>	<p>自然文化園「上の広場」を主会場として開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「上の広場」で、大阪府伝統工芸品の堺五月鯉幟を製作している職人の指導のもと、「ミニ鯉のぼりをつくろう」の催物を実施 ・「下の広場」で「フワフワバルーン・ディノザウルスランド(恐竜モデル)」を設置 	<p>自然文化園</p> <p>214,687人 (189,617人) 対前年比+13.2%</p>

日本の春咲えびね展 4月29日(日・祝) ～5月5日(土・祝)	日本庭園内「園芸植物展示場」で開催 ・春咲えびね 200 点を展示 ・即売会や栽培相談コーナーなどを設置	日本庭園 17,848 人 (16,744 人) 対前年比+6.6%
リトルアジアンショー ケース 4月29日(日・祝) ～5月6日(日) <u>[新規]</u>	自然文化園「東大路通り」でテント 24 張を 設置し開催 ・アジア 8 カ国 (日本、タイ、韓国、ベトナム、 インドなど) のグルメや民芸雑貨の屋 台が集結 ・同時開催となるホテル阪急エキスポパーク 内では、「アジアンフェア in EXPO」を開催。 また、ホテルと「東大路通り」間のアクセ ス改善を図るため、シャトルバスが運行さ れた	自然文化園 145,040 人
環境エキスポ 2007 5月4日(金・祝) ～5月5日(土・祝)	自然文化園「上の広場」で開催 ・世界の民族音楽&スポーツ交流フェスタを 実施 ・子どもたちによるダンスフェスタ実施 ・バンブーピラミッドなどの竹細工教室 ・子ども向けアンパンマンショーを実施	自然文化園 44,482 人 (48,772 人) 対前年比 ▲8.8%
ジャーマン・ アイリス展 5月12日(土) ～5月15日(火)	日本庭園内「園芸植物展示場」で開催 ・ジャーマン・アイリス 100 種類を展示 ・即売会や栽培相談コーナーなどを設置	日本庭園 4,108 人 (3,875 人) 対前年比+6.0%
関西吹奏楽連盟創立 70周年記念「ブラスエ キスポ'07 友愛のサ ウンド」 5月13日(日)	自然文化園「お祭り広場」及び園内一円で開 催 ・関西吹奏楽連盟加盟 1,874 団体約 7,000 人 のブラスバンドの演奏演技の交流会 ・自然文化園各広場で'70年代のヒット曲を 各府県別に練習するほか、新入部員のレッ スンや親子管楽器教室も実施 ・お祭り広場で開催する友愛フェスティバル では、エキスポランドの事故で亡くなられ た被害者に対する黙祷と哀悼コンサート を行った後、各部門での演奏会を実施 [万博公園賑わい創出支援事業]	自然文化園 17,331 人 (16,508 人) 対前年比+5.0%

ルピナスフェスタ 5月3日(木・祝)～ 5月27日(日)	自然文化園「ルピナスガーデン」で開催 ・2種約4,000本のルピナスが開花	自然文化園 178,706人 (100,627人) ※昨年はローズフェスタと同時開催 対前年比+77.6%
ローズフェスタ 5月12日(土)～ 6月3日(日)	自然文化園「平和のバラ園」で開催 ・世界9か国から寄贈された貴重な品種を含む81種約5,600本のバラが開花 ・会期中の各日曜日には、JAZZ演奏、ミニライブ、邦楽演奏会を開催 ・また、会期中「バラなんでも相談コーナー」の設置や、土日にはバラを使った押し花教室を開催	自然文化園 130,657人 (100,627人) ※昨年はルピナスフェスタと同時開催 対前年比+29.8%
螢の夕べ 5月26日(土)～ 6月3日(日)	日本庭園西地区流れで開催 ・当庭園に自生する「ゲンジボタル」、「ヘイケボタル」の観賞(午後9時30分まで開園時間延長) ・昨年度までは週末の金・土・日に実施していたが、今年度から、安全管理や観賞価値を高めるため、9日間連続開催を行った	日本庭園 22,094人 (21,973人) 対前年比+0.6%
モバイルネイチャーラリー in 万博公園 6月3日(日) [新規]	自然文化園各所に設置している「日本万国博覧会パビリオン解説サイン」を使ったネイチャーラリーゲームを実施 ・携帯電話でQRコードを認識させ、日本万国博のパビリオンの解説や写真、園内の花情報などを入手しながら公園を巡るラリーゲームを開催 [万博公園賑わい創出支援事業]	自然文化園 261チーム 1,036人 (参加者)
ラベンダーフェスタ 6月16日(土)～ 7月1日(日)	自然文化園「ラベンダーの谷」で開催 ・9品種6,500株のラベンダーが開花 ・6/17(日)には、バンドショーを開催 ・期間中の日曜日には、ラベンダーの花を使った押し花、小物づくり教室を開催	自然文化園 41,102人 (33,422人) 対前年比+23.0%
あじさい祭 6月9日(土)～	自然文化園「あじさいの森」及び「桜の流れ」周辺一帯で開催 ・30種4,500株のあじさいが開花	自然文化園 59,781人

<p>7月1日(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいにちなんだ俳句を募集(162人・413句の応募あり[昨年は140人、336句])し、入選作品を掲示 ・期間中の日曜日には、あじさいの花を使った押し花の団扇づくり教室を開催した 	<p>(91,505人) 対前年比 ▲34.7%</p>
<p>早朝観蓮会&象鼻杯 7月7日(土)、8日(日)、 14日(土)、16日(月・祝)、 21日(土)、22日(日)</p> <p>(15日(日)は台風4号の接近により中止)</p>	<p>日本庭園内「はす池」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅、黄紅など26種1,200株のハスの開花に合わせ、早朝6時から開園を実施した ・当日の来園者には、特製うちわを先着順(500名)でプレゼントしたほか、菊正宗よりお酒の提供を受け、象鼻杯(300名/日)とハス酒(100名/日)の試飲会を実施した ・期間中の各日曜日には、能管演奏会を実施した ・庭園内の「はす庵」では、はすの実が入った朝粥メニューを提供したほか、新たにホテル阪急エキスポパークと連携し、ロビーにハスを展示したほか、蓮根料理を提供した 	<p>日本庭園 5,875人 (6,042人) 対前年比 ▲2.8%</p>
<p>夢・星野スポーツ塾 ポップアスリートカップ 開会式/サマーベース ボールフェスティバル 2007</p> <p>7月16日(月・祝)</p> <p><u>[新規]</u></p>	<p>ポップアスリートカップ開会式は「スポーツ広場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪、京都、兵庫から少年野球チーム約150団体を招聘し、塾長の星野仙一氏による挨拶と始球式を実施。その後、8チームによる記念試合が行われた <p>サマーベースボールフェスティバル2007は、「お祭り広場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星野仙一、久慈照嘉(元阪神タイガース選手)、大林素子(元全日本女子バレー選手)の各氏によるトークショー、ストレッチ教室が行われたほか、屋台・縁日ブースなどが出店し、夏祭りのような雰囲気が演出された <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>スポーツ広場 約5,000人</p> <p>自然文化園 7,463人</p>

<p>＝森の冒険公園プロジェクト＝ キッズカメラマンによる「万博公園わくわく探検隊」 7月30日（月）、31日（火） [新規]</p>	<p>自然文化園、自然観察学習館で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サントリ一次世代研究所と共同して実施 ・新聞、ラジオ、『万博公園だより』で参加募集を行った結果、定員50名のところ54名の応募者があった。そのうち、当日参加したのは43名で、小学4年生から6年生が42名、中学2年生が1名であった ・初日は、公園を探索しながら自分が気に入った場所の写真を撮影、2日目は撮影した写真を地図上に貼り、なぜそこを撮ったのかコメント入りのマップを子どもたちだけで作成した 	<p>自然文化園 (参加者数) 43人</p>
<p>ひまわりフェスタ 7月28日（土）～ 8月26日（日） [新規]</p>	<p>自然文化園「チューリップの花園」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30種約10,000本のひまわりが開花 ・園内で活躍しているNPOとの共催で、公園で伐採した竹を利用し、流しそうめんの体験や水鉄砲づくりを行った ・会期中、レストラン「パークカフェ」では、ひまわりフェスタスペシャルメニューの提供を行った ・会期中「花ぽっぽ」の臨時停留所を設置し、アクセス機能を向上させた 	<p>自然文化園 79,038人</p>
<p>ガンバ大阪フェスティバル 9月16日（日）</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」「上の広場」「下の広場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー教室、ウォークラリー、健康チェック、各種ステージイベントが実施された 	<p>自然文化園 8,604人 (5,952人) 対前年比+44.6%</p>
<p>日露交歓コンサート 9月30日（日） [新規]</p>	<p>自然文化園「鉄鋼館」及びホテル阪急エキスポパークで開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院の教授、助教授、卒業生などによる本場のクラシック音楽が演奏された 「万博公園賑わい創出支援事業」 	<p>自然文化園鉄鋼館 50人 ホテル阪急エキスポパーク 340人</p>
<p>秋の山野草展 10月7日（日）～ 10月14日（日）</p>	<p>日本庭園「園芸植物展示場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の山野草のリンドウ、ホトトギス、シダ類が約300点展示されたほか、栽培相談コーナーや即売会も開催された 	<p>日本庭園 6,807人 (8,047人) 対前年比▲15.4%</p>

<p>マニアエキスポ 2007</p> <p>10月6日(土)～ 10月14日(日)</p>	<p>自然文化園「鉄鋼館」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万博マニアの収集品、機構の収蔵展示品など約300点の展示を行ったもので、本年度5回目の開催 ・万博マニアの河内家菊水丸氏が収集したコレクションの出展と併せ、10/7(日)には菊水丸氏によるトークショーを開催した ・館内売店では、平成4年度の太陽の塔改修工事で剥がしたタイルの販売や博覧会当時に販売されていたレトログッズの販売を行い、話題性を高めた 	<p>自然文化園鉄鋼館</p> <p>14,003人 (7,052人)</p> <p>対前年比+98.6%</p>
<p>ホップ・ステップ・マーチング in 万博</p> <p>10月8日(月・祝)</p> <p><u>[新規]</u></p>	<p>自然文化園「お祭り広場」ほかで開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年まで継続してきた「国際マーチング in 万博公園」に代わるイベントとして実施した ・関西の有名吹奏楽団、チアリーダー、パトクラブ、カラーガードなど15団体約1,200人が集結し、音楽やダンスを披露した <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園</p> <p>10,814人</p> <p>ロハスフェスタと同時開催</p>
<p>ロハスフェスタ</p> <p>10月8日(月・祝)</p>	<p>自然文化園「上の広場」、「下の広場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作りの雑貨やアンティーク、身体に配慮した食品などナチュラル感あふれる商品のショッピングやグルメが楽しめる約230店舗が参加した <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園</p> <p>10,814人</p> <p>ホップ・ステップ・マーチング in 万博と同時開催</p>
<p>コスモスフェスタ</p> <p>10月6日(土)～ 11月4日(日)</p>	<p>自然文化園「花の丘」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花の丘に30万本のコスモスが咲いている様子を楽しんでもらうとともに、期間中に多彩なアトラクションを行い、集客と来園者サービス向上に努めた(主なイベント) ・10/27 韓国ウルサン子ども合唱団と伝統舞踊 ・10/28 大阪府立国際児童文学館と連携した「ことばあそび大会」 ・11/4 コスモスの花のプレゼント 	<p>自然文化園</p> <p>245,129人 (285,813人)</p> <p>対前年比 ▲14.2%</p>

<p>紅葉まつり</p> <p>11月1日(木)～ 12月2日(日)</p>	<p>日本庭園・自然文化園の「紅葉地域」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期中、日本庭園の茶室・茶庭を特別公開し、呈茶サービスを行ったほか、17日(土)から汎庵、千里庵で懐石弁当のサービスをホテル阪急エキスポパークと連携して行った ・また、茶庭では能管演奏を開催したほか、庭園内で紙芝居や音楽演奏会、人力車の試乗なども行い、来園者に楽しんでもらった 	<p>自然文化園 227,891人 (194,176人)</p> <p>対前年比+17.4%</p>
<p>森の音楽フェスティバル</p> <p>11月3日(土・祝)</p>	<p>自然文化園一帯で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭り広場から東大路通りで約1,000人がパレードを行った ・お祭り広場において、「吹奏楽で画くふるさと日本 お国めぐり」と題して、日本各地の民謡等の音楽を演奏した 	<p>自然文化園 14,353人 (16,348人)</p> <p>対前年比 ▲12.2%</p>
<p>エコフェスタ in EXPO Park</p> <p>「万博公園で見つけよう！自然と環境」</p> <p>11月11日(日)</p>	<p>自然文化園お祭り広場、無料団体休憩所などで開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭り広場では、企業の環境取組紹介コーナー、リサイクルフェア、リユースマーケットなどの出展を行った ・園内で活動しているNPOの環境保全への取組のパネル紹介、エコツアー、エコライフポスターの展示、エコライフトークショーなどを行った 	<p>自然文化園 10,189人</p>
<p>関西文化の日 (入園・入館無料デー)</p> <p>11月17日(土) ・11月18日(日)</p>	<p>関西広域機構が呼びかけ実施している「関西文化の日」(文化施設の入館料等を無料とする日)の趣旨に賛同し、万博公園においても、日本庭園・自然文化園、国立民族学博物館(常設展+特別展)、大阪日本民芸館の入園(館)料無料デーを実施</p>	<p>自然文化園 65,303人 (38,281人)</p> <p>対前年比+70.6%</p>
<p>EXPO-MATSURING YOSAKOI in 万博公園</p> <p>11月17日(土)</p>	<p>自然文化園「太陽の広場」及び西側園路で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の広場特設ステージにおいて、24チーム640人の踊り子参加による「よさこい演技のコンテスト」を開催した ・自然文化園西側の中津道、下津道において初の「よさこいパレード」を開催した 	<p>自然文化園 18,808人 (20,413人)</p> <p>対前年比 ▲7.9%</p>

<p>ABC ラジオまつり 2007</p> <p>11月18日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」、「下の広場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭り広場のステージでは、ABC ラジオの人気パーソナリティによる生公開放送やトークショー、歌などが披露された ・お祭り広場、下の広場では、子ども向けのアトラクションや各種物産展、サンプリングなどが行なわれた 	<p>自然文化園</p> <p>46,495 人 (17,868 人)</p> <p>対前年比+160.2%</p>
<p>イルミナイト万博 ワールドイルミネーションエキスポ</p> <p>12月15日(土)・16日(日)・22日(土)～24(月・祝)</p> <p>[新規]</p>	<p>自然文化園「太陽の広場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の広場及び太陽の塔に約4万個のLEDで飾るクリスマスイルミネーションを行った。また、親子で環境問題に関心を持って頂くためエコライトのロウソクキャンドル(1,500個)を来園者によって点灯してもらった参加型行事を行った さらに、博覧会当時最大級のパビリオンであったソ連館の模型(1/60スケール)を制作展示したほか、スイス館の「光の木」を修復し、37年ぶりに点灯を行った ・会期中、太陽の広場特設ステージにおいて、北欧音楽やハンドベルなどのコンサートを行った <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園</p> <p>24,650 人</p>
<p>2008年ニューイヤー フェスタ</p> <p>1月13日(日)</p>	<p>自然文化園「東の広場」、「鉄鋼館」、大阪府立国際児童文学館で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東の広場で、凧あげコンテストや大とんど焼き、兵庫県宍粟市の雑煮ふるまいや特産品の販売などを行った ・鉄鋼館で「日本の凧の会」や「大阪万博紙飛行機を飛ばす会」指導の下、凧づくり教室(先着200名)や紙飛行機作り教室(先着300名)を開催した ・児童文学館こども室で「ねずみのおはなし」会を開催した 	<p>自然文化園</p> <p>5,309 人 (3,090 人)</p> <p>対前年比+71.8%</p> <p>児童文学館</p> <p>552 人 (241 人)</p> <p>対前年比+129.0%</p>
<p>雪まつり</p> <p>2月9日(土)～11日(月・祝)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県宍粟市の協力の下、天然雪約100m³をお祭り広場に運び込むとともに、宍粟市 	<p>自然文化園</p> <p>24,358 人 (22,046 人)</p>

	<p>の特産品の販売やぼたん汁のふるまいを連携して行った</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもに人気の高い、雪の滑り台を設置したほか、テレビで放送されていたキャラクターショーを開催するとともに、本年度は新たにペンギンと触れ合う体験広場を設けた 来場者の満足度を高めるため、ホテル阪急エキスポパークや生活誕生館 DILIPA、シテイライフと連携して、飲食店の出展や環境にやさしいガス器具の展示などを行った 	対前年比+10.5%
<p>梅まつり</p> <p>2月16日(土)～ 3月16日(日)</p>	<p>自然文化園・日本庭園「梅林」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 2/17(日)、24(日) 梅林のあずまやにおいて、ミニコンサート等を開催した 3/2(日) 太陽の広場で会期中のメインイベントとして、ミニ健康講演会、坂本冬美そっくりショー、お楽しみ抽選会などの「梅満開ふれ愛デー」を開催した 水車茶屋において会期中、梅関連の商品販売と梅知識のパネル展示を行った 日本庭園の汎庵・万里庵の茶室、茶庭の特別公開と呈茶提供を行った。また、千里庵では会席弁当のサービスも行った 	<p>日本庭園</p> <p>40,072人 (40,770人)</p> <p>対前年比 ▲1.7%</p> <p>自然文化園</p> <p>168,659人 (159,386人)</p> <p>対前年比+5.8%</p>
<p>万博公園ふれあいの日 (無料デー)</p> <p>3月16日(日)</p>	<p>日本万国博覧会の開催日(3/15)を記念して、日本庭園・自然文化園、国立民族学博物館、大阪日本民芸館の入園(館)料無料デーを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ABCラジオ番組の公開生放送や各種アクションによる「ABCラジオスプリングフェスタ 2008」及び「ABC万国博マラソン 2008」を開催した 世界14カ国から来日した28名の若者が、世界の歌と踊りを披露し、平和への願いを込めて来園者との交流を行った <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立民族学博物館講堂において、「日本庭園の造成から開園までの記録映画」(午 	<ul style="list-style-type: none"> 日本庭園 <p>9,872人 (2,593人)</p> <p>対前年比+280.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然文化園 <p>67,449人 (25,011人)</p> <p>対前年比+169.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> 民族学博物館 <p>6,778人 (4,103人)</p> <p>対前年比+65.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> 上映会: <p>1回目 571人</p>

	<p>前)、「日本万国博の公式記録映画」(午後)を上映し多くの反響を得た</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人主催の啓発事業として、自然文化園で環境問題を学びながら巡る「万博エコツアー」を開催した ・博覧会終了後に吹田市千里山の毎日放送の敷地に設置されていた、博覧会当時の彫刻作品「空」を移設し公開した 	<p>2回目 636人 (941人)</p> <p>対前年比+28.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪日本民芸館 3,849人 (1,014人) 対前年比+279.6% ・児童文学館 1,494人 (760人) 対前年比+96.6%
<p>桜まつり</p> <p>3月28日(金)～ 4月13日(日)</p>	<p>自然文化園東大路通りで開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期中桜のライトアップを21時まで開催 ・東の広場の西側園路にて全国大陶器市を開催(3/28～4/9) ・FM802 FLOWER AFTERNOON 公開生放送(4/3) ・EXPO JAZZ FESTIVAL (4/5・6) [新規] [万博公園賑わい創出支援事業] 	<p>自然文化園 211,941人 (198,903人)</p> <p>対前年比+6.6%</p> <p>※内夜間入園者 21,095人 (18,580人)</p> <p>対前年比+13.5%</p>
<p>文楽人形お披露目会</p> <p>3月30日(日)</p> <p>[新規]</p>	<p>日本庭園中央休憩所にて開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文楽の実演と体験コーナー 12:30～/ 14:30～ 2回公演 ・博覧会当時、日本館1号館にあった文楽人形(八重垣姫)のロボットを38年ぶりに修復し、初披露を行った 	<p>日本庭園 803人</p>

- 公園内の運動施設や公園の豊かな緑の環境を市民の健康増進に活用する観点から、小学生から高齢者までを対象として次のようなスポーツイベントを開催した。

スポーツ施設のイベント(開催順)

イベント名・開催期間	開催場所・イベント内容	参加者数等 ()は前年度数
<p>2007 報知 futsal festa in 万博公園</p> <p>5月12日(土)、19日 (土)</p>	<p>フットサルコート</p> <p>共催：当機構、報知新聞社</p> <p>後援：読売テレビ、読売新聞大阪本社</p> <p>一般公募のフットサル大会</p>	<p>参加チーム</p> <p>12日 8チーム</p> <p>19日 13チーム (14チーム)</p> <p>対前年比+50.0%</p>

2007 報知テニス・グラ ンプリ in 万博公園 7月15日(日)、22日 (日)	テニスコート 共催：当機構、報知新聞社 後援：読売テレビ、読売新聞大阪本社 一般公募の企業チームテニス大会	参加チーム数 48チーム (57チーム) 対前年比▲15.8%
万博ナイター陸上競技 大会 8月4日(土)	万博記念競技場 主催：当機構 主管：大阪中学校体育連盟陸上競技専門 部ほか 小・中学生主体の公認陸上競技大会	参加者数 中学生 2,343人 小学生 219人 合計 2,562人 (2,050人) 対前年比+25.0%
第4回パークゴルフ万 博公園オープン記念大 会 9月30日(日)	パークゴルフ万博公園 共催：当機構、辰野(株) 一般公募のパークゴルフ大会	参加者数 98人 (151人) 対前年比▲35.1%
弓道一日体験会 11月4日(日) [新規]	弓道場 主催：大阪府弓道連盟 後援：当機構 小学生～高校生対象の弓道体験会	参加者数 134人
ミズノ・フェスティバ l in 万博公園 11月23日(金・祝)	テニスコート・フットサルコート 共催：当機構、ミズノ テニス・フットサル体験やレッスンを中心 としたスポーツ・イベント	参加者数 373人 (350人) 対前年比+6.6%
2007 ニシ・スポーツ杯 万博クロスカントリー 大会 12月23日(日)	万博記念競技場及び自然文化園内クロス カントリーコース 共催：当機構、ニシ・スポーツ、ガンバ 大阪 10km、5km、3kmの年齢層・男女別等の大 会	参加者数 2,882人 (2,846人) 対前年比+1.3%
第3回大阪府遠的色的 得点制弓道大会 1月6日(日)	弓道場 共催：当機構、大阪府弓道連盟 大阪府下では実施されていない遠的の競 技大会	参加者数 70人 (107人) 対前年比▲34.6%
2008 万博長距離記録会 2月17日(日)	小・中・高校生の長距離(1.5km～5km) 記録会 主催：当機構	参加者数 365人 (322人) 対前年比+13.4%

- 「桜まつり」、「蛍の夕べ」、「イルミナイト万博ワールドイルミネーションエキスポ」の期間中は、通常午後5時の閉園を午後9時（「蛍の夕べ」のみ午後9時30分）まで延長した。また、「早朝観蓮会&象鼻杯」の期間中は早期開園を行い、通常午前9時30分の開園を午前6時に早めた。

「桜まつり」における夜間入園状況（自然文化園）

月 日	天 候	開花状況	夜間入園者数（人）	全入園者数（人）
平成19年				
4月1日（日）	曇	三分咲き	781	19,520
4月2日（月）	曇	五分咲き	840	8,071
4月3日（火）	晴	七分咲き	921	9,493
4月4日（水）	雨	七分咲き	880	9,532
4月5日（木）	晴	満開	1,449	14,497
4月6日（金）	晴	〃	2,297	15,530
4月7日（土）	曇	〃	3,395	18,390
4月8日（日）	晴	〃	3,783	50,230
4月9日（月）	晴	〃	767	8,322
4月10日（火）	晴	〃	779	8,297
4月11日（水）	晴	〃	907	6,217
平成19年 計			16,799	168,099
平成20年	晴	咲き始め	133	3,645
3月28日（金）				
3月29日（土）	晴	三分咲き	895	13,305
3月30日（日）	雨	五分咲き	110	5,842
3月31日（月）	曇	五分咲き	214	3,899
平成20年 計			1,352	26,691
合 計			18,151	194,790
過去の実績			夜間入園者数（人）	全入園者数（人）
平成18年度（16日間）			20,986	194,260
平成17年度（17日間）			20,869	189,689
平成16年度（18日間）			18,771	178,302
平成15年度（18日間）			4,317	64,384

「蛍の夕べ」における夜間入園状況（日本庭園）

年 度	夜間入園者数（人）	全入園者数（人）
平成 19 年度（9 日間）	22,094	23,424
平成 18 年度（6 日間）	21,973	28,827
平成 17 年度（9 日間）	26,361	35,750
平成 16 年度（9 日間）	29,965	42,969
平成 15 年度（5 日間）	10,240	16,960

「イルミナイト万博ワールドイルミネーションエキスポ」
における夜間入園状況（自然文化園）

年 度	夜間入園者数（人）	全入園者数（人）
平成 19 年度（5 日間）	16,101	24,650

「早朝観蓮会&象鼻杯」における早朝入園状況（日本庭園）

年 度	早朝入園者数（人）	全入園者数（人）
平成 19 年度（7 日間）	5,875	9,630
平成 18 年度（7 日間）	6,042	9,568
平成 17 年度（9 日間）	5,802	12,192
平成 16 年度（6 日間）	6,276	9,511
平成 15 年度（6 日間）	5,001	10,300

○ 園内に咲く花の看板による案内、『万博公園だより』の配布先の拡大、各種イベントや開花情報等の情報発信などの活動を NPO 法人等と協働して実施している。今後は、園内で四季に咲く花々や風景の写真撮影を行っているボランティアと連携して、ホームページでの最新の情報発信や万博公園花ガイド等の制作などを検討していくこととする。

○ 広大な自然文化園の足の便を向上させるために、「花ぼっぼ」（園内周遊用連結型バス・パークトレイン）及び「森のエコバス」（小型電気自動車）を運行した。

「花ぼっぼ」については、「ルピナスフェスタ」、「ラベンダーフェスタ」の期間中、会場付近に臨時停留所を設置し、「森のエコバス」については「ポピーフェア」や「コスモスフェスタ」の期間中、自然文化園中央口から花の丘会場までの間を臨時運行し、来園者、とりわけ高齢者へのサービスに努めた。

なお、平成 19 年度のそれぞれの利用者数が減っているのは、5 月 5 日のエキスポランド事故直後から、それぞれのメーカー等に車軸等の検査を依頼し、「花ぼっぼ」については約 2 か月の、「森のエコバス」については約 4 か月の運休が生じたため

ある。

パークトレイン及び森のエコバス利用者数

年 度	パークトレイン	森のエコバス
平成 19 年度	61,394 人	8,266 人
平成 18 年度	67,618 人	12,889 人
平成 17 年度	64,665 人	13,865 人
平成 16 年度	65,055 人	18,841 人
平成 15 年度	—————	23,335 人

- 平成 19 年度においても、来園者サービスの向上のため、来園者が多い春と秋の定休日（水曜日）の開園を実施した。

定休日の開園日数及び入園者数

項 目	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
開園日数	6 日間	23 日間	24 日間	22 日間	28 日間
入園者数	21,172 人	37,133 人	41,079 人	33,966 人	60,113 人
1 日当たり 平均入園者数	3,529 人	1,614 人	1,712 人	1,544 人	2,147 人

③ 民間の発想の活用

【放送会社等の提案によるコンサートの実施】

- 万博公園の「もみじ川芝生広場」は、大都市圏には貴重とされている森に囲まれた野外コンサート会場として、主催者や出演者からも高い評価を得ている。

平成 19 年度においては、来園者の少ない夏期を中心に、音量を規制するなど周辺住民や来園者の理解と協力を得ながら、民間放送会社等から提案を受けた 5 件の大規模コンサートを次表のとおり実施した。

(会場：もみじ川芝生広場)

開 催 日	コンサート名	入場者数
7 月 22 日(日)	FM802 MEET THE WORLD BEAT 2007	19,872 人 (昨年：17,109 人)
8 月 4 日(土)	情熱大陸SPECIAL LIVE 2007	13,730 人 (昨年：15,377 人)
8 月 12 日(日)	SOUL POWER なにわ SUMMIT 2007	10,328 人 (-----)

8月25日(土)	ウルフルズ ヤッサ 2007	19,507人 (昨年:20,762人)
10月13日(土)	風に吹かれて 2007	35,253人 (昨年:20,594人)
計		98,690人 (昨年92,489人:fm Osaka live18,647人を 含む)対前年比+6.7%

【日本万国博巡回展等】

- 日本万国博覧会の理念や当時の開催状況に加え、現在の万博記念公園における取組等を紹介する巡回展は、平成17年度の愛知万博での出展を皮切りに、平成18年度の大阪城天守閣に続き、平成19年度は広島市（NTTクレドホール）において7月27日（金）から8月15日（水）までの20日間実施した。

巡回展の開催状況

年 度	開催場所	開催期間	入場者数	構成団体
平成19年度	広島市 [NTTクレドホール]	平成19年7月27日～8月15日	8,395人	主催:万博機構 毎日放送、 中国放送、 中国新聞社
平成18年度	大阪 [大阪城天守閣]	平成18年7月29日～8月6日	37,124人	主催:万博機構 毎日放送、 毎日新聞社
平成17年度	愛知万博会場 [モリゾー・キッコ館]	平成17年9月17日～9月25日	64,323人	主催:万博機構

- BIE（博覧会国際事務局）設立75周年を記念して、これまで世界各国で開催されてきた万国博覧会（一般博）の歴史を振り返る展示会が、2008年2月のイタリア（ミラノ）を皮切りに、ポルトガル、ベルギー、フランス、アメリカ、日本（愛知万博跡地ほか）、中国（2010年上海）など世界15都市を巡って順次開催されることに伴い、大阪万博の映像をBIEに提供するなどの協力を行った。

【スポーツ団体と連携した施設整備及び運営】

- 休止していたサイクルランドの跡地に、平成18年6月、関西学生アメリカンフットボール連盟と共同で、人工芝、ナイター設備及び3,000人収容のスタンドを備

えた関西で2番目のアメリカンフットボール専用球技場を開設した。

また、同球技場の運営を関西学生アメリカンフットボール連盟に委託した結果、関西学生リーグ戦のメイン会場として利用され、利用数も平成18年度（10か月間）273件から平成19年度は504件に増加した。

- 財団法人日本サッカー協会の「サッカーを中心としたモデル的スポーツ環境整備助成金」を得て、総合スポーツ広場に人工芝及びナイター設備を備えたサッカーグラウンドを開設し、平成19年度4月14日に釜本邦茂氏らを迎えて竣工式典を開催した。

同グラウンドの運営は社団法人大阪府サッカー協会に委託し、少年からシニアまで幅広い年代層へのサッカー普及の活動に利用されており、開設初年度の平成19年度は、470件の利用があった。

【リターナブル食器の導入】

- 廃棄物の削減を目的としてリターナブル食器を導入するため、当公園で開催される各種イベントの関係者にその利用促進について協力を要請した。

また、来園者への啓発を進めるため、NPO法人及び売店と連携して機構主催イベント等の臨時売店においてリターナブル食器を利用するとともに、来園者へアピールを行った。

本年度における実績は次のとおりであり、食器利用数は4,414個と、昨年度の3,370個を1,044個、31%上回った。

年 度	臨時売店実施日数	リターナブル食器利用数
平成19年度	8日	4,414個
平成18年度	10日	3,370個
平成17年度	11日	2,636個

- 平成19年度からは、リターナブル食器の回収時に発生する残飯等の生ゴミを堆肥化する試みも併せて実施し、7.8kgの残飯を堆肥化した。
- 平成19年9月からは、園内の常設の食堂・売店（一部を除く）においても恒常的なリターナブル箸の使用が開始された。

【大学、民間教育機関と連携した自然学習活動】

- 京都大学主催で、夏休み in 万博公園「自然からまなぶ考える力」が開催され、自然文化園「ビオトープの池」をフィールドとした自然観察のほか、自然観察学習館において、ベネッセ教育研究開発センター研究員による講演が行われた。（8月27日、参加者：小学生親子20組）

④ 入園者数増加に向けた努力

【花の見所整備の状況】

- 「チューリップの花園」においては、前年度、チューリップが終わった後に植えたひまわりが好評であったため、平成19年度は、ゴッホのひまわりを始め珍しい品種(30種類)のひまわりを植え、新規イベントとして「ひまわりフェスタ」を開催した。
- 夏から秋までの間の入園者数増加を図るため、ひまわりに次いで、「ルピナスガーデン」でポーチュラカ、ケイトウなど4種類の花を觀賞できるよう工夫を行った。
- 自然文化園に原種シクラメン等を植栽し、冬に觀賞できる花の見どころ整備を行った。また、日本庭園の東側の現代庭園地区には、昨年度に設置した藤棚を更に増設し、名所となるよう整備を行った。

【便益施設の整備等の状況】

- 四季の花イベント開催に合わせ、会場内に仮設ベンチを増設し、来園者サービスに努めている。
- 来園者アンケート調査での、「メニューを増やして欲しい」との要望に応え、「チューリップフェスタ」では、チューリップランチを新メニューとして加えるとともに、「早朝観蓮会」では、朝粥のサービスを行った。

【広報展開状況】

- 四季の花イベントにおける広報実績
 - ・ 四季イベントの広報については、様々な広報媒体を活用するとともに、花の開花状況に応じてタイムリーなプレスリリースを行ったことにより、次表のとおりマスメディア等に多数取り上げられた。

イベント名 ()はプレスリリース日	広報媒体等 (有料広告)	放映・掲載状況	
		テレビ・ラジオ	新聞・雑誌等
桜まつり	公園だより3・4月号(27万部)、 イベントポスター(450枚)、 新聞折込みチラシ(45万部)、 シティライフ(60万部)、 機構ホームページ	4/4 FM802 4/6 毎日放送TV 4/7 読売TV 4/9 吹田ケーブルTV	4/1 モノレール・プレス、阪急TOKK 4/4 毎日新聞 4/6 産経新聞 4/7 朝日新聞

チューリップ フェスタ	公園だより 4月号 (14 万部)、 イベントポスター (450 枚)、 新聞折込みチラシ (45 万部)、 機構ホームページ	4/6 吹田ケーブルTV	4/1 旅こよみ
ポピーフェア (4/11)	公園だより 4月号 (14 万部)、 イベントポスター (450 枚)、 新聞折込みチラシ (45 万部)、 機構ホームページ	4/19 毎日放送TV	4/15 産経新聞 4/16 毎日新聞 4/17 読売新聞
ルピナスフェ スタ・ローズ フェスタ	公園だより 5月号 (10 万部)、 イベントポスター (450 枚)、 市報 (7.6 万部)、阪急 TOKK (60 万部)、シティライフ (60 万 部)、機構ホームページ	5/25 吹田ケーブルTV	5/1 モノレール・プレス 5/25 関西ウォーカー 5/26 大阪日日新聞
万博公園に鯉の ぼりを上げよう (4/25)	公園だより 4月号 (14 万部)、 機構ホームページ	5/4 吹田ケーブルTV 5/5 ABCラジオ	4/27 産経新聞 5/1 阪急 TOKK
環境エキスポ 2007	公園だより 4月号 (14 万部)、 機構ホームページ		4/12・14・17・21・23・ 26・27 5/1・2・5・26 産経新聞
蛍の夕べ	公園だより 5・6月号 (19.5 万 部)、イベントポスター (450 枚)、新聞折込みチラシ (45 万 部)、シティライフ (60 万部)、 機構ホームページ	5/20 FMcoco10 5/28 OBCラジオ 5/31 FM802	5/22 神戸新聞 6/2 朝日新聞
ラベンダーフ ェスタ・あじ さい祭 (6/13)	公園だより 6月号 (9.5 万部)、 イベントポスター (450 枚)、 新聞折込みチラシ (45 万部)、 市報 (36 万部)、シティライフ (60 万部)、機構ホームページ	6/20 FM802 6/21 NHKTV 6/21 吹田ケーブルTV	6/15・19 毎日新聞 6/15・20 産経新聞 6/19 関西1週間 6/29 朝日新聞
早朝観蓮会& 象鼻杯 (7/4)	公園だより 7月号 (8 万部)、 イベントポスター (450 枚)、 新聞折込みチラシ (45 万部)、 市報 (36 万部)、サンケイリビ ング折込みチラシ (13 万部)、 シティライフ (60 万部)、機構 ホームページ	6/30・7/6・12 NHK・ MBSラジオ 7/7 毎日放送TV 7/8 ラジオ大阪 7/14 NHKTV 7/19 吹田ケーブルTV	6/23 サンケイリビング 7/14 大阪日日新聞 7/17 関西1週間

ひまわりフェスタ (8/2)	公園だより7月号(8万部)、イベントポスター(450枚)、シティライフ(60万部)、機構ホームページ	8/6 FM千里 8/7 吹田ケーブルTV	7/25 読売ファミリー 7/28 大阪日日新聞 7/31 朝日新聞 8/1 関西1週間 8/5 読売新聞 8/14 関西ウォーカー 8/18 朝日新聞
マニアエキスポ2007 (10/1)	公園だより10月号(11万部)、チラシ(2万部)、機構ホームページ	10/3 ラジオ関西 9/23・10/5MBSラジオ 10/6・7 毎日放送TV 10/6 FM千里 10/9 読売テレビ 10/10 吹田ケーブルTV 10/12 関西テレビ・ABCラジオ	9/30 読売新聞 10/5 朝日新聞 10/8 スポーツニッポン 10/8 大阪日日新聞
コスモスフェスタ (10/12)	公園だより10・11月号(22万部)、イベントポスター(450枚)、シティライフ(60万部)、市報(36万部)、阪急TOKK(60万部)、機構ホームページ	10/12 ABCラジオ 10/13 読売テレビ 10/16 FM千里 10/20 NHKTV・NHKラジオ	10/9 関西1週間 10/17 産経新聞 10/26 シティリビング 10/31 朝日新聞 11/2 産経新聞 11/6 関西ウォーカー
紅葉まつり (11/8)	公園だより11月号(11万部)、イベントポスター(450枚)、シティライフ(60万部)、市報(36万部)、機構ホームページ	11/22 NHKTV 11/19・29 吹田ケーブルTV 11/29 毎日放送	10/20 サンケイリビング 11/1 北急だより 11/20 関西1週間・関西ウォーカー 11/26 読売新聞 11/28 産経新聞
イルミナイト万博 ワールドイルミネーション エキスポ (12/11)	公園だより11・12月号(19.5万部)、イベントポスター(450枚)、シティライフ(60万部)、阪急TOKK(60万部)、機構ホームページ	12/5 吹田ケーブルTV 12/7・12・14・22 FM802 12/14 FM千里 12/14 毎日放送 12/15 NHKTV	11/29 サンケイリビング新聞 11/29 ぴあ関西版 12/1 茨木市市報、モノレール・プレス 12/4 関西ウォーカー 12/5 読売新聞 12/15 大阪日日新聞、共同通信社、朝日新聞、産経新聞、毎日新聞

雪まつり (2/5)	公園だより 2月号 (8.5 万部)、 イベントポスター (450 枚)、 シティライフ (60 万部)、阪急 TOKK (60 万部)、市報 (36 万部)、機構ホームページ	2/9 NHK TV 2/12 吹田ケーブルTV	2/6 毎日新聞 2/7 読売新聞 2/8・10 産経新聞 2/9 朝日新聞 2/9 神戸新聞 2/10 大阪日日新聞
梅まつり (2/21)	公園だより 2・3月号 (27.5 万 部)、イベントポスター (450 枚)、シティライフ (60 万部)、 阪急TOKK (60 万部)、市報 (36 万部)、機構ホームページ	2/23・24 MBSラジオ 2/16 読売テレビ・毎日 放送・ABCラジオ 2/19・23 FM千里 2/23・24 MBSラジオ 2/29 吹田ケーブルTV 3/6 読売テレビ	2/24 読売新聞 2/26 産経新聞・大阪日 日新聞 2/27 読売新聞

○環境保全への取組に関する広報実績

- ・万博公園の「自立した森づくり」の取組状況や公園施設を紹介した約 15 分の番組を制作し、9 月の毎週日曜日 (2 日・9 日・16 日・23 日・30 日)、8 時 45 分から 9 時までの 15 分間、CS 全国放送「スカイ A」で放映した。
- ・ホームページのトップページに「自然・環境」のメニューを設け、自立した森づくりや園内における動植物の調査などの「自然の森再生の取り組み」、省資源・省エネルギー等の「環境への取り組み」、NPO 法人等との協同事業である「みんなで作る万博公園」、環境イベントの情報などをまとめ、分かりやすいページ構成とした。また、「自然の森再生への取り組み」の動画映像を配信できるようにした。

○その他公園に関する広報実績

- ・4 月 2 日 (月) 総合スポーツ広場サッカー場における人工芝・夜間照明設備等のリニューアルオープンのプレスリリースにより、4 月 15 日 (日) 読売新聞に記事が掲載されたほか、吹田ケーブルテレビでも放送された。
- ・4 月 25 日 (水) ゴールデンウィークのイベント情報のプレスリリースにより、4 月 29 日 (日・祝)・5 月 1 日 (火) には、「リトルアジアンショーケース」が産経新聞に掲載された。また、5 月 3 日 (木・祝) に吹田ケーブルテレビで「万博お茶摘み大会」が放送されたほか、5 月 5 日 (土・祝) には、朝日放送ラジオで「ミニ鯉のぼりをつくろう」が紹介された。
- ・「モバイルネイチャーラリー in 万博公園」(万博公園賑わい創出支援事業) の模様が 6 月 4 日 (月) に産経新聞に掲載された。

- ・岡本太郎をテーマとした海外向けの番組で、現在の「太陽の塔」の外観と内部の状況の映像が、6月8日（金）NHK国際放送局制作センターより、世界各国のNHK放送局あてに配信された。
- ・「太陽の塔」内部の再公開について産経新聞より取材があり、耐震診断を実施することについての記事が6月25日（月）に掲載された。
- ・博覧会当時、日本館に展示されていた巨大タペストリー（「よろこびの塔」、「かなしみの塔」）の修復作業の状況が毎日新聞により取材され、6月25日（月）夕刊のトップ紙面（カラー写真）にて掲載された。（関東圏でも掲載）
- ・また、上記タペストリーのうち「かなしみの塔」を、広島市で37年ぶりに公開する旨のプレスリリースを7月2日（月）に行ったことにより、7月6日（金）5大紙（朝日、読売、産経、毎日、日経新聞 ※朝日は関東圏にも掲載）及び、全国の共同通信配信社（東京、岩手、山陽）で掲載されたほか、7月5日（木）NHK、読売テレビ、7月9日（月）吹田ケーブルテレビでも放送された。
- ・特別展「1970年大阪万博の軌跡」の広島開催について、次表のとおり取材があった。

取材日	媒体名	掲載・放送内容	備考
7/27（金）	中国放送ラジオ	広島展の目玉展示等	生中継
〃	NHK・中国放送	タペストリーの紹介	ニュースで放送
〃	広島テレビ	大阪万博展の紹介	録画収録
7/28（土）	中国新聞	タペストリーの掲載	カラー掲載
〃	毎日新聞	大阪万博展の紹介（太陽の塔）	カラー掲載
〃	中国放送ラジオ	大阪万博展の見所紹介	職員対応
7/29（日）	産経新聞	タペストリー、太陽の塔紹介	
8/9（木）	中国放送テレビ	会場内の展示見所紹介	機構職員出演
8/11（土）	中国放送ラジオ	大阪万博展の見所紹介	〃 生中継
8/13（月）	中国放送ラジオ	万博展総合監修 橋爪紳也氏の 電話インタビュー	生中継

- ・「森の冒険公園研究プロジェクト」の関連事業「万博公園探検隊キッズカメラマン」の募集について、7月5日（木）朝日新聞、7月6日（金）読売新聞に掲載されたほか、7月9日（月）MBSラジオでも放送された。また、7月11日（水）にプレスリリースを行ったことにより、7月30日（月）には、NHK、テレビ大阪の

取材があり、当日のニュースで放送されたほか、7月31日（火）には吹田ケーブルテレビでも放送された。

- ・NHK教育テレビ「趣味の園芸開局40周年記念」の特別企画番組として、「日本庭園の見方、楽しみ方」と題し、当庭園が4つの時代をイメージして作庭されたことなどについて、京都造形芸術大学 仲教授の解説で、45分番組が制作された。この番組は、12月30日（日）、1月5日（土）にNHK教育テレビで全国放送されたほか、12月31日（月）NHKワールドプレミアムで世界各国にも配信された。
- ・「万博公園ふれあいの日」のプレスリリースを3月13日（木）に行ったことにより、3月14日（金）産経新聞、3月15日（土）朝日新聞、毎日新聞に掲載されたほか、3月16日（日）には、ABCラジオでも放送された。
- ・博覧会当時、日本館の1号館に展示されていた文楽人形ロボット3体のうち、「八重垣姫」1体を38年ぶりに修復した。その修復過程と完成披露についてプレスリリース（3月27日（木））を行ったことにより、NHK報道番組（約5分間）で放送された（3月29日（土）関西版・3月31日（月）全国版）ほか、産経新聞、大阪日日新聞（3月31日（月））にも掲載された。
- ・万博公園の携帯サイトを構築し、園内に新規設置した博覧会パビリオンの案内看板から携帯電話を使ってパビリオンの情報を閲覧することができるようにしたほか、同サイトを活用し、イベント情報や駐車場入庫状況もタイムリーに閲覧できるようにした。

【『万博公園だより』等の配布拡大】

機構職員が各種団体等に依頼した結果、次のとおり『万博公園だより』の配布拡大が可能となった。

- ・大阪モノレール彩都線延長開業に合わせ、彩都西駅構内にラック台を設置し、毎月『公園だより』を配布することとした。
- ・吹田市民病院と吹田市博物館において、『公園だより』を5月号から毎月それぞれ300部ずつ新たに配布した。
- ・ABCハウジングとのタイアップにより、近畿圏と東京方面の住宅展示場に『公園だより』（毎月880部）とイベントポスター（年9回発行22枚）を新たに配布した。

・大阪歴史博物館、兵庫県立美術館、大阪人権博物館、服部緑地都市緑化植物園において、『公園だより』を7月号から毎月それぞれ30部ずつ配布した。

・北摂各市の広報課に、『公園だより』の配布部数の拡大を依頼した結果、豊中市(120部)、池田市(450部)、伊丹市(390部)、箕面市(20部)から承諾が得られた。
(追加部数合計 980部/月)

【各メディアの放映・掲載状況】

○ 5月5日のエキスポランドにおける事故発生以降は、報道機関の関心が事故に集中したこと等により、約2か月間取材が入らなかった。しかし、公園における情報発信の公共性の観点から、7月より通常どおり新聞、テレビ、ラジオ、雑誌等への広報活動を再開した。また、『万博公園だより』やホームページ等を活用し情報発信に努めてきた結果、平成19年度における放映・掲載状況は次表のとおりとなった。

(単位:件)

メディア	平成 16年度 実績	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
		実績	対前年度比	実績	対前年度比	実績	対前年度比
新聞 (読売、朝日、毎日、産経、日経、大阪日日ほか)	85	106	+25%	173	+63%	195	+13%
テレビ (NHK、日本TV、フジTV、朝日放送、毎日放送、関西TV、スカイA、CATVほか)	35	116	+231%	262	+126%	147	▲44%
ラジオ、雑誌、ミニコミ紙等 (ABC、MBS、FM802、FM851、関西1週間、シティライフほか)	66	195	+195%	175	▲10%	289	+65%
合計	186	417	+124%	610	+46%	631	+3.4%

※1 エキスポランドの事故関連は除く

※2 新聞、ラジオ等の件数が増加した要因としては、プレスリリース等を通じたメディアへのアプローチの強化等の影響が考えられる。なお、テレビ・ラジオの件数は把握している件数のみ計上

【入園者数・利用件数等の状況】

○ 上記の取組の結果、平成19年度における入園者数は1,583,692人となり、年度計

画の1,298,519人を285,173人上回った。

- スポーツ施設等の利用件数は、12,154件となり、年度計画の10,885件を1,269件上回った。

区 分	実 績①	計 画②	差	達成率 ①/②×100
入園者数	1,583,692人	1,298,519人	285,173人	122.0%
利用件数	12,154件	10,885件	1,269件	111.7%

公園の入園者数及びスポーツ施設等の利用件数の推移

区 分	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	計①	中期計画 (14年度 ×5) ②	達成率 (①/② ×100)
入園 者数	1,358,962 人	1,330,831 人	1,363,846 人	1,514,113 人	1,583,692 人	7,151,444 人	6,492,595 人	110.1%
利用 件数	11,694 件	11,358 件	11,973 件	11,111 件	12,154 件	58,290 件	54,425 件	107.1%

- 再入園者数の目標数値「100万人以上」を達成するため、繰り返し公園を利用する人を対象に多くの特典が付与される会員制の「万博オールパスポート」制度を平成17年4月1日から創設し、その入会を呼びかけるため、『万博公園だより』等で紹介するとともに、モノレール各駅や園内各ゲートでのチラシの配布やポスターの掲出等を積極的に行った。

また、平成19年度には、割引対象に国立民族学博物館の入館料・食堂を加えるなど特典の充実を行い、加入者数の増大を図った。

万博オールパスポート発行枚数

年 度	発行枚数	対前年増加率
平成19年度	3,827枚	+12.0%
平成18年度	3,417枚	+44.5%
平成17年度	2,365枚	—

- 平成19年度に実施した来園者アンケート調査(全3回)の結果に基づく推計によると、再入園者数は、1,483,919人(平成18年度推計値は1,349,074人)であり、

中期計画目標である 100 万人を上回った。

再入園者数

実績 ①	計画 ②	差 (①-②)	達成率 ((①/②))
1,483,919 人	1,000,000 人	483,919 人	148.4%

再入園者数の推移

平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計 ①	中期計画 (100 万人 ×5) ②	達成率 (①/② ×100)
1,129,297 人	1,240,334 人	1,249,282 人	1,349,074 人	1,483,919 人	6,451,906 人	5,000,000 人	129.0%

⑤ 公園内の安全確保

- エキスポランドの事故を教訓に、公園全体の安全管理の基本的枠組みを取りまとめるために、5月24日に理事・部長・関係課（センター）長で構成する「安全管理体制検討会」を設置し、7月30日に「万博記念公園安全管理対応指針」を取りまとめた。

この対応指針に基づき、8月31日には自然文化園地区の施設管理に当たる業務受託者を集めて園内における車両等の運行にかかる規則の徹底を図る会議を開催し、10月9日には、公園内の施設管理等に携わる施設管理者及び業務受託者等で構成する「万博記念公園安全管理連絡会議」を発足させ、安全管理に関する注意喚起と情報交換等を行った。（平成20年4月22日にも開催）

また、同指針に基づき、平成20年度業務委託契約における安全確保の観点からの契約条項の見直し、イベント主催者に対する安全に関わる許可条件の遵守の徹底などを実施した。

このほか、AEDの使用講習会（平成19年6月18日、平成20年2月18日）や消防法上の指定施設における避難誘導訓練（平成19年6月15日、12月4日、平成20年2月8日、2月29日）を、テナント・業務受託者・施設利用者等の参加を得て実施した。

- 工事施工業者に安全教育の徹底を指導するとともに、公園の設備保守業務に当たる委託業者の担当者20名に対して「変電所内工事心得」及び「墜落災害防止の決めて」に関する安全教育を2日に分けて実施した。（平成20年2月20日、27日）

(2) 環境保全への積極的な貢献

【自立した森再生センター】

- 平成19年4月1日の組織改正において、大学等の研究機関・NPO・ボランティア等との連携を強化し「自立した森再生センター」の充実・強化を図るため、センター内に

緑地管理と参画推進の2係を設けた。

- 博覧会の跡地を生物多様性に富んだ「自立した森」に再生する「自立した森再生事業」を計画的に遂行するうえで、研究者の専門的な指導・助言を得る必要があることから、18年度より研究者で構成する「自立した森再生研究委員会」（京都大学大学院教授ほか6名）を設置し、19年度は9月と3月に開催した。

委員会においては、平成18年度自立した森づくり調査研究等の成果報告、今年度の施業計画等の概要、今後の「自立した森づくり」計画修正案及びオオタカの営巣等について報告を行い、今後の調査研究及びオオタカを含む希少生物等の保護並びに情報提供の在り方等について指導及び助言を得た。

【自立した森づくり】

- 「自然文化園自立した森づくり調査」研究を昨年度に引き続き京都大学と共同で行った。今年度は、林縁部樹林の一部を伐採し、低木を中心とした良好な林縁環境を創り出すこと等を目的とした新たな間伐区を2箇所加え、合計22箇所の試験区のモニタリング調査を継続的に実施するとともに、一部試験区においてアカメガシワなど先駆植生が生長し林床を覆い、はじめ増えていた種数も減少に転じてきたため、先駆種で特定優占種のアカメガシワなどを伐採し、その後の変化を調査することとした。また、熱赤外リモートセンシングによる樹林の活力度評価等を行った。

ギャップ区・間伐区開設の箇所数（自然文化園、密生林内）

年度	12	13	14	15	16	17	18	19	計
ギャップ区	4	3	1	1	1	1	—	—	11
間伐区	1	2	3	—	1	1	1	2	11

※「ギャップ」とは、森林において台風などにより倒木が発生して生じた空間をいい、これを人工的に造るものである。

- このほか、自立した森再生事業の一層の拡充を図るため、大学等の研究機関・NPO・ボランティア等と共同して、次表のとおり生物調査を実施した。

生物生息環境調査結果（平成 19 年度調査）

調査名 (調査機関)	調査内容	調査結果等
多様な生物相復元のためのエコアップ手法の確立（大阪府環境農林水産総合研究所、大阪府立大学）	現在、芝生地として維持している区域と樹林地との間に草地を形成し、植生の連続性・傾斜を設けることにより、生物の多様性がどのように変化するかなどについての生物調査	<p>・調査回数：6回</p> <p>《植物種の変遷》 5種（芝生当初）⇒62種（16年度）⇒92種（17年度）⇒54種（18年度）⇒68種（19年度）</p> <p>《昆虫種の変遷》 6種（芝生当初）⇒39種（16年度）⇒94種（17年度）⇒93種（18年度）⇒88種（19年度）</p> <p>（※芝生の草地化により、種数・個体数とも大幅に増加したが、植物種については、3年目には特定の種が優先したことから減少した。生物の多様性を維持するためには、ある程度の人的管理が必要と思われるため、19年度には、一定の刈り込みや刈り込み高を調整するなど管理手法を工夫した結果、再度増加している。）</p>
園内の野生生物生息調査（社団法人大阪自然環境保全協会）	ギャップ区・間伐区等における野生生物の追跡調査（トンボ・チョウなど昆虫、両性類、爬虫類他）	<p>調査回数：23回</p> <p>クロスジギンヤンマ、アオスジアゲハ、モリアオガエル、モツゴなどを確認</p>
特定外来魚類等生息状況調査（社団法人大阪自然環境保全協会）	生態系を乱す特定外来生物等の生息調査	<p>調査回数：13回</p> <p>各池でウシガエル・アメリカザリガニ・ミシシippアカミミガメ、オオアカウキクサなど確認</p>
野鳥の生息調査（吹田野鳥の会）	自然の森再生に向け、渡り鳥や留鳥等の個体数・種数等のデータの蓄積及び解析を継続調査	<p>《春の渡り鳥調査》 調査日：4/15～5/5の毎日 参加延べ人数：70名 ツグミ科2種（4種）、ウグイス科3種（4種）、ヒタキ科3種（3種）、その他5種（7種）を確認</p> <p>《万博公園探鳥会》 調査回数：13回 参加延べ人数：763名 観察した鳥：59種（59種） （ ）は昨年度種数</p> <p>（※野鳥の種数については、全体としては大きな増とはなっていないが、種の内容でみると、草原性の野鳥が減っている反面、森林性の野鳥が増えており、森の再生が進んでいることが示されている。）</p>

- 「都市内大規模公園におけるヒートアイランド現象抑制効果に関する調査」研究を昨年度に引き続き大阪大学と共同で実施した。今年度は、過去の調査データと比較し、当公園の森の生長が熱環境に及ぼす影響についての評価及び周辺区域に及ぼす滲み出し効果について調査した。
- 全国でも初の景観園芸に関する人材の養成を目的として開設された兵庫県立淡路景観園芸学校から夏期実習生の受入依頼があり、8月27日から31日まで男子学生（1年生）をインターンシップとして受け入れ、当機構職員等により、自立した森づくり調査（希少生物、植生調査等）、園内開花調査、学習館業務及びNPOとの協働事業の職場体験の指導等を行った。
- NPO法人吹田市民環境会議から、当公園内における「すいたの大木調査2007」（吹田市内全域で10年ぶりに行われる幹周2m以上の樹木調査、平成19年2月～12月）実施の協力依頼があった。
当該調査結果は、マップ及び報告書として広く市民に情報提供されるため、機構にとっても有益であり、また公園の生物の多様性を図るためには周辺緑地との連携が不可欠であるため、機構職員も樹木調査に参加し、自立した森づくりの経緯や取組状況を説明するなど、積極的に協力した。その結果、当公園内の大木は116本あり、10年前（25本）に比べて大幅に増加したことがわかった。
- 第38回日本緑化工学会大会において、京都大学が18年度の「自立した森づくり調査」の研究結果（題目：植栽後30年経過したクスノキの樹高と土壌硬度の関係他）について発表した（平成19年9月7日）。
- 平成19年1月に公園内で特定外来生物に指定されているアライグマが目撃されたため、吹田市と協議のうえ、捕獲器を設置するとともに目撃情報の収集及び足跡調査などの追跡調査を継続的に実施していたところ、7月26日にアライグマ1頭を捕獲し、吹田市に引き渡した。
- 平成19年2月に当公園で初めてオオタカの巣作りを確認し、吹田野鳥の会の協力のもと、専門家の助言を得ながら慎重に経過観察等を行った。その結果、8月中旬に雛1羽が無事巣立った。
オオタカが営巣し雛が巣立つことは、万博公園が里山に近い森に復元されていることの大きな指標であり、自立した森の意義をPRする絶好の機会であると考え、写真パネルとビデオによるオオタカの特別展示（巣作りから巣立ちまで）を自然観察学習館新館で開催した（展示期間：8月26日～9月30日）。

また、季刊誌『森発見』（No.8：12月15日発行）で、オオタカの繁殖記録を掲載した。

- 当公園に生息する希少生物の保護増殖等については、昨年度に引き続き、環境省等行政機関に対し、総合的な保護方策に係る支援等について要請を行うとともに、各地域の協議会等に参加し、意見交換を行った。

【次世代型統合医療】

- 昨年度から継続して実施している「万博公園における統合医療による健康増進事業」パイロット試験（毎週水曜日、計12回、参加者：健常者8名）が、5月9日（12回目）に終了した。
- 京都大学で開催された第38回日本緑化工学会大会研究集会（緑化分野における「人と健康と緑」という新しい研究領域）において、京都府立医科大学大学院今西教授が「緑の環境と統合医療」の基調講演を行い、当公園で実施している次世代型統合医療の試みが紹介された（9月8日）。
- 万博公園における統合医療による健康増進事業パイロット試験が、「万博公園賑わい創出支援事業」の助成を受けて開始した。今年度は京都府立医科大学、京都大学、高槻赤十字病院のほか、食事療法のメニューを追加したことによりホテル阪急エキスポパークも参加して行った（9月19日～12月5日の毎週水曜日12回、参加者：がん患者9名）。
- 「メタボリック症候群」など健康に関心のある市民を対象に、万博公園での統合医療の取組や緑環境の大切さなどについてわかりやすく説明し、当公園を健康増進の場として利用してもらうことを目的に、「緑の環境と健康」をテーマとした講演会をホテル阪急エキスポパークと共催で1月26日に同ホテルで開催した。
講演会終了後のアンケート調査結果では、同様の講演会等の開催を希望する声が多く、健康に関しての関心が非常に高いことがわかった（参加者：108名、講師：京都府立医科大学大学院今西教授、京都大学大学院森本教授）。

【NPO法人等との協働による資源循環型公園づくり】

- 平成16年11月から資源循環型の公園管理をNPO法人等と協働して実施しており、平成19年度においては下表①のとおり、10業務を委託した。
併せて、これらの団体に対し指導・助言を行い、相互の連携を図るとともに、機構業務との調整を行う「中間支援業務」を、次のNPO法人に委託した。

団 体 名	委 託 期 間
NPO 法人大阪府民環境会議	4～7 月
NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	8～3 月

また、各 NPO 法人等のボランティアスタッフを万博公園で育成するため、機構と NPO 法人等が協働して下表②のとおり、各種養成講座を実施した。

これらの取組の結果、各団体が呼びかけて実施した市民参画型の作業体験会などの活動に参加したボランティア及び来園者の数は、下表③のとおり、平成 18 年度の延べ 27,256 名から平成 19 年度には延べ 38,038 名と大幅に増加した。

① NPO 法人等に委託した公園管理等業務

	業 務 名	団 体 名
①	花園創出管理	NPO 法人ベスト
②	花壇管理	NPO 法人ベスト
③	園内野生生物生息調査	(社) 大阪自然環境保全協会
④	農業体験支援	NPO 法人野と森の遊び文化協会
⑤	循環市民の森づくり	NPO 法人里山倶楽部
⑥	竹林資源活用	NPO 法人野と森の遊び文化協会
⑦	美化推進	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ
⑧	日本庭園・自然文化園水質維持	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ
⑨	足湯運営管理	NPO 法人スマイルパーク(4～7 月) NPO 法人摂津市人材サポート・ビューロー(8～3 月)
⑩	広報活動支援(H19.8～)	NPO 法人スマイルパーク

② 環境ボランティア養成講座

講 座 名	期間回数等
初級竹仙人養成講座(秋期)	10～12 月の 4 回
初級竹仙人養成講座(冬期)	1～3 月の 4 回
中級竹仙人養成講座	10～3 月の 5 回
初級万博炭焼師養成講座	3 月の 2 回
初級自然循環型伝承農法士講座(前期)	7～8 月の 4 回
初級自然循環型伝承農法士講座(後期)	10～12 月の 4 回
中級自然循環型伝承農法士講座	9～3 月の 6 回
初級水仙人養成講座(夏期)	7～8 月の 4 回
初級水仙人養成講座(秋期)	10～11 月の 4 回

万博公園・自然環境セミナー	6～11月の7回
万博公園・生き物見分け方講座	6～12月の7回
初級温室効果ガス削減士（秋期講座）	10～11月の4回
初級温室効果ガス削減士（冬期講座）	1～3月の4回
万博循環型社会推進大学（第1期生）	4～9月の6回
万博循環型社会推進大学（第2期生）	4～3月の16回
万博循環型社会推進大学（短期ゼミ）	2～3月の4回
循環型の森づくりボランティア養成講座（前期）	10～11月の4回
循環型の森づくりボランティア養成講座（後期）	12～1月の4回

（注）1日だけの参加が可能な講座は、記載を省略

③ 市民参加型作業体験者数

（単位：人）

	18年度			19年度		
	ボランティア	来園者	計	ボランティア	来園者	計
花園創出管理	1,668	535	2,203	1,310	598	1,908
花壇管理	810	62	872	1,433	424	1,857
園内野生生物生息調査	399	538	937	547	950	1,497
農業体験支援	845	193	1,038	1,067	662	1,729
循環市民の森づくり	131	543	674	225	1,057	1,282
竹林資源活用	1,099	417	1,516	1,486	668	2,154
美化推進	301	3,370	3,671	755	6,260	7,015
日本庭園・自然文化園水質維持	361	146	507	655	668	1,323
足湯運営管理	411	15,427	15,838	499	17,554	18,053
広報活動支援(H19.8～)	-	-	-	185	1,035	1,220
計	6,025	21,281	27,256	8,162	29,876	38,038

【剪定枝等の再利用】

- 園内の緑地管理に伴い発生した間伐材・剪定枝・根株などは、昭和50年代から、場外処分せず、園内でチップ化・堆肥化などして再利用する「植物残材ゼロエミッション」に取り組んでいる。

平成19年度においては、園内でチップ化してマルチング（根の保護・雑草防除などのために地表に撒くこと）材として590m³を再利用した。また、チップ620m³を更に熟成させて堆肥とし、花壇等の肥料として再利用したほか、一部余剰分については、次のとおり堆肥、竹炭として園内で販売し、環境保全の普及啓発に努めた。

園内販売実績一覧表

年度	堆 肥		竹 炭	
	数量 (900 g 入)	金額 (円)	数量(200～350 g 入)	金額 (円)
平成 19 年度	4,324 袋	432,400 円	852 袋	256,500 円
平成 18 年度	4,897 袋	489,700 円	1,495 袋	437,400 円
平成 17 年度	4,638 袋	464,950 円	2,506 袋	562,500 円
平成 16 年度	5,147 袋	519,700 円	6,992 袋	1,356,300 円
平成 15 年度	3,511 袋	351,100 円	1,879 袋	490,500 円

【木質バイオマス有効活用及び足湯】

- 公園内間伐材等を利用した「木質バイオマス有効活用実証試験」を平成 18 年度から引き続き実施中であり、山村や公園での実用性に主眼をおいた小規模で簡素なバイオマス有効活用システムの構築に取り組むとともに、木質バイオマスエネルギーを活用して発電を行うシステムの仕組みと運転状況について、見学会を実施した(4月～3月計 60 日間、参加者計 607 名)。
- また、この木質バイオマスの有効活用実験で運転しているボイラーから出る温湯を利用して、足湯を運営している。

足湯の月別利用者数

年度 月別	平成 18 年度		平成 19 年度	
	利用数	稼動日	利用数	稼動日
4 月	1,089	22	2,943	26
5 月	1,450	27	2,521	26
6 月	—	—	179	2
7 月	—	—	88	1
8 月	—	—	—	—
9 月	141	1	17	1
10 月	3,404	27	2,618	24
11 月	2,917	25	4,380	26
12 月	151	2	—	—
1 月	1,319	25	—	—
2 月	2,486	24	1,826	25
3 月	2,470	27	2,982	27
計	15,427	180	17,554	158

【データ公表】

- これまで取り組んできた森づくり、動植物に関する調査結果等を季刊誌『森発見』やホームページで次のとおり情報発信した。

季刊誌『森発見』掲載一覧表

掲 載 内 容	掲載号（発行日）
当公園で取り組んでいる「次世代型統合医療」の特集	No.6(6月15日)
当公園の緑がもつヒートアイランド抑制効果を明らかにするため、昨年度から大阪大学と共同研究で実施している「熱環境調査」の中間報告	No.7(9月15日)
当公園で営巣したオオタカの繁殖記録「巣作りから巣立ちまで」	No.8(12月15日)
自然文化園内で調査した「シダ植物観察記録」 新シリーズ「万博記念公園の環境」	No.9(3月31日)

ホームページ掲載一覧表

掲 載 内 容	掲載日
日本野鳥の会大阪支部の2006年度「万博公園調査」結果	4月10日
吹田野鳥の会の「万博公園春の渡り鳥調査」(2007年度)	6月29日
「多様な生物相復元のためのエコアップ手法の確立」調査結果(2006年度)	9月10日

(3) 廃棄物の縮減、リサイクルの推進、省資源・省エネルギー対策などの環境保全に関する計画の策定

- 廃棄物等の縮減、リサイクルの推進、省資源・省エネルギー対策などの環境保全に関する当機構の取組状況及び実績等を包括的に情報発信するため、「環境保全報告編集会議」を開催し、実績データの収集、取りまとめ及び情報発信の手法等について検討した。

今後、季刊誌やホームページなどで、これまでの環境保全の取組や実績を客観的に評価・分析し、検証結果をよりわかりやすく情報発信をしていく予定である。

【太陽光発電の活用】

- 機構と新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との共同研究事業「太陽光発電新技術等フィールドテスト事業」の太陽光発電設備が平成18年2月28日に竣工し、平成18年3月1日から発電を開始している。

・太陽光発電施設の概要

設置場所 : 自然文化園南斜面
種 類 : 多結晶シリコン太陽電池
設置面積 : 1,580 m² (5.8m×270m)

○ 本設備は運転や気象のデータの蓄積及び効率向上のための実証試験として設けられたものであり、パネル清掃をしない条件のもとで運用し、NEDO に対し四半期ごとに気象条件、発電量などの採取データを報告している。

○ NEDO と協議の上、平成 19 年 3 月からは太陽光発電装置の発電実績等を分かりやすく取りまとめ、機構のホームページでも公表している。その概要は、次のとおりである。

年 度	年間発電電量 (KWh)	CO ₂ 削減量 (ton-co ₂)
平成 19 年度	230,548	87.1
平成 18 年度	214,751	81.2

【井水・雨水の活用】

○ 水道水は、取水、浄化、配水に大きなエネルギーを必要とするため、井水・雨水の活用は、環境保全の課題となっている。

当公園の日本庭園及び自然文化園の水系は、下流に設けられた池の水を循環させて上流の滝に流し、流れる途中の蒸発・漏水を井戸水や雨水によって補う循環型のシステムとして構築されており、緑地への灌水も井戸水によって賄われているが、流れのない自然文化園東地区では一部で灌水に水道水が使われていた。

このため、「おもしろ自転車広場」の西側に公園内で 5 本目の深さ 200m の井戸を掘り、自然文化園東地区については、緑地への灌水のみならずトイレの洗浄水も井戸水により賄うこととした。

○ 公園において最も人出が多い自然文化園東地区のトイレ洗浄水を井戸水に切り替えたことによる水道使用量の節減効果は大きく、対象となる区域の水道使用量供用開始前後の 1 年間で比較すると、次のとおり著しく減少している。

期 間	水道使用量 (m ³)	節減率
平成 18 年 10 月～平成 19 年 9 月	6,411	71.1%
平成 17 年 10 月～平成 18 年 9 月	22,164	—

○ また、自然文化園及び日本庭園にある 5 本の井戸は、大規模災害発生時に飲料水以外の生活用水として井戸水の提供を行う「災害時協力井戸」としても大阪府に登録している。

【自然文化園外灯の取替え】

○ 自然文化園地区の外灯は 1970 年当時の器具も使われているなど老朽化していたため、平成 17 年 3 月に「自然文化園外灯改修計画」(平成 17 年度～平成 21 年度)

を策定し、省エネルギーの観点から、

- ・照明区域を必要度が高い主要園路に限る
- ・樹木の生長により光が遮られている外灯は、位置・高さ・形状を変える
- ・できるだけ無電極放電灯を採用し、使用電力や電球取替作業の軽減を図る
- ・ソーラー・風力ハイブリッド外灯を日当たり等の状況から可能な部分で一部採用し、啓発にも役立てることとしている。

- 平成 19 年度は、この計画に基づき自然文化園中央地区で工事を実施し、老朽化した水銀灯 156 基を撤去し、無電極放電灯 51 基を設置した。

【受変電設備の整理統合】

- 公園内の配電系統は、基本的には博覧会開催当時の配電系統を踏襲しているため、現在の公園施設の電力需要からみると過大な設備内容となっており、維持管理や老朽化した設備の更新に多額の経費を要するほか、設備全体の老朽化による停電の発生が問題となっていた。

このため、平成 17 年 3 月に「受変電設備整備計画」（平成 17 年度～平成 26 年度）を策定し、逐次設備を取り替え、全体的に簡素な配電系統（変電設備を 53 基から 32 基に削減）とし、契約電力量、使用電力量の低減を図るとともに、維持管理費、設備取替経費の節減を図ることとしている。

- この計画の第 3 期として、平成 19 年度においては「中央地区（万博記念ビル・中央駐車場周辺）受変電設備改修工事」を実施し、この地区の変電設備を 4 基から 1 基に減らしたほか、関西電力と当機構の責任分界を見直すとともに、公園内の停電等が公園周辺の市街地への給電に影響を及ぼすことがないようにした。

【人感センサーの導入】

- 「万博記念公園の環境保全に関する計画」では、公園内トイレの利用は 10 時頃から 16 時頃までに集中し、かつ天候によってはほとんど使用されない日・時間帯も多い（雨天時・夏季冬季）ため、省エネルギーの観点から実際に利用する際のみ点灯するよう人感センサーを導入することとしている。

- 計画に従い平成 16～18 年度に整備した 4 棟の「みんなのトイレ」への導入に引き続き、平成 19 年度においても「けやきの丘トイレ」に「人感センサー」を導入した。

【透水性舗装の実施】

- 自然文化園の中央口～国立民族学博物館の間の主要幹線園路のうち、お祭り広場北側～国立民族学博物館の舗装をバリアフリーの観点から再舗装するに当たって、

ヒートアイランド現象抑制等の観点から透水性舗装を採用した(253m、2,877㎡)。

(4) 地域社会への積極的な貢献

① バリアフリー化の推進

【施設整備】

- 「バリアフリー化推進計画」に基づき、自然文化園の「けやきの丘トイレ」を、ユニバーサルデザインによる「みんなのトイレ」(※)に改修した(平成20年3月21日竣工)。

※ 身体障害者専用でなく、身体障害者の優先利用を前提にみんなが積極的に利用するトイレとする理念を言葉に込めている。広さや設備も妊産婦・幼児連れの来園者などにとっても利用しやすいものとしており、オムツ替えやオストメイト(人工肛門・膀胱)装着者への配慮を行うとともに、授乳室を併設している。

これにより、全園の計画対象トイレ数38か所のうち、34か所で「みんなのトイレ」の設置が完了し、施設数は21%の増加となり、中期計画の目標数値(15%以上)を上回った。なお、平成20年度からは運動施設地区において4か所の「みんなのトイレ」の整備を進めることとしている。

- 平成18年度に引き続き公園の現状変更及び老朽化に対応する自立式の公園案内看板の板面取替工事をユニバーサルデザインの考え方を取り入れて実施した(自然文化園地区35基、運動施設地区12基、10月15日竣工)。

主要な特徴は次のとおりである。

- ・車椅子使用者や子どもにも見やすいように板面の位置を低くした
- ・大きく、分かりやすい地図とした
- ・4か国語表記(日本語・英語・中国語・韓国語)を実施
- ・地名等の漢字にふりがなを付した
- ・色覚障害者に配慮した色使いとした

- 凹凸や水溜りができバリアフリーの障害となっていた自然文化園上津道の土舗装のうち、人通りの多い梅林～西大路広場間を対象に、再度土舗装を行った。(1,090m、4,252㎡)

この道が自立した森を貫く園路であるため、「景観にマッチしている」、「アスファルト舗装にされなくてよかった」など自然愛好者からも好評を得ている。

- 自然文化園の中央口～国立民族学博物館の間の主要幹線園路のうち、老朽化により亀裂や段差が多かったお祭り広場北側～日本庭園前ゲート～国立民族学博物館の舗装を、バリアフリーの観点から再舗装した(253m、2,877㎡)。

- 「バリアフリー化推進計画」に基づき、① 大阪モノレール万博記念公園駅から自然文化園中央口までの間、② 日本庭園前ゲートから国立民族学博物館・日本庭園・大阪日本民芸館までの間、③ 大阪モノレール公園東口駅から万博記念競技場までの間の3つのルートに視覚障害者誘導用ブロックを設置した（平成20年3月31日竣工）。

なお、平成20年度以降も引き続き、公園の景観に配慮しつつ、視覚障害者誘導用ブロックの設置を進めていくこととしている。

- 自然文化園内園路の横断側溝のグレーチング（金属製溝蓋）については、平成17年度までに車椅子・ベビーカー・ハイヒール等の通行に支障がないように細目のものへの取替えを終了しているが、平成20年3月には、最も人通りの多い自然文化園中央口から国立民族学博物館・日本庭園の間の園路際の集水柵のグレーチングについて、細目のものへの取替えを行った。

- 博覧会終了後に吹田市千里山の毎日放送の敷地に設置されていた博覧会当時の彫刻作品「空」を、毎日放送の移転に伴い自然文化園（国立民族学博物館南側）に移設し公開するに当たり、移設場所に至る園路について、園路舗装や段差解消などバリアフリーのための改修を行った。

【ソフト面の取組】

- 公園全施設のバリアフリー化の現況（車椅子による園路通行の可否、園内の文化施設やトイレのバリアフリー設備）を取りまとめ、色覚障害者に配慮した色使いなどの工夫をこらした「らくらくお散歩マップ」を平成19年11月に制作した。

このマップは、ホームページにも掲載するとともに、総合案内所や自然文化園の各ゲートで案内に使用しているが、今後、バリアフリー施設の整備の進捗に合わせて改定していくこととしている。

- 吹田市は市内の鉄道等の駅を中心にバリアフリー基本構想を順次取りまとめているが、同基本構想において、平成19年度は大阪モノレール万博記念公園駅及び公園東口駅周辺が対象となり、当機構も大阪府、大阪高速鉄道、国立民族学博物館などととも、吹田市が主催する「万博公園周辺地区バリアフリー検討会議」に参画した。

8月28日には身体障害者団体も参加して同会議による「万博公園周辺地区バリアフリー・タウンウォッチング」が開催され、公園内の課題なども検討された。

この会議における検討結果を踏まえ、平成19年12月11日に吹田市バリアフリー基本構想策定委員会において基本構想（素案）が決定され、パブリックコメントを経て、平成20年3月31日に「万博公園周辺地区バリアフリー基本構想」が決定さ

れた。

同構想では、機構の「バリアフリー推進計画」の内容も採り入れられており、公園敷地については機構が計画的に整備し、大阪府道やモノレール駅にかかる部分はそれぞれの管理者が計画的に整備するといった内容となっている。

② 学習機会の提供

【自然観察学習館】

- 地域社会に貢献するため、自然観察学習館の活動として、自然観察会や森の工作教室等の体験学習を53回開催した。

体験学習の開催回数

年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
実績	18回	40回	48回	51回	53回
実績(中期計画ベース)	7回	12回	12回	16回	13回
中期計画	7回以上	7回以上	7回以上	7回以上	7回以上

(注)体験学習の開催回数については、中期計画策定時点では、ボランティア団体が主体となって実施する「自然観察ガイド」、「森の工作教室」を各1回としていたが、実際にはそれぞれの区分で多数の体験学習を実施していることから、実質的な開催回数を別途記載することとしたものである。

平成19年度における体験学習の開催状況 (単位：人)

区分	催し物名	実施日	定員	参加数	備考	
指導リーダーの会	自然観察ガイド	(1)新緑の観察会	4/22(日)	30	—	雨天中止
		(2)春の野鳥観察会	5/19(土)	30	24	
		(3)春の昆虫観察会	5/27(日)	30	46	
		(4)樹に咲く花の観察会	5/27(日)	30	28	
		(5)チョウ、トンボの観察会	6/10(日)	30	51	
		(6)水辺の植物の観察会	6/24(日)	30	-	雨天中止
		(7)水辺の昆虫観察会	7/8(日)	30	49	
		(8)夏鳥の観察会(1)	7/28(土)	30	9	
		(9)セミの観察会	8/5(日)	30	19	
		(10)夏鳥の観察会(2)	8/18(土)	30	14	
		(11)バッタの観察会	9/9(日)	30	67	
		(12)秋の野草の観察会	9/23(日)	30	15	
		(13)鳴く昆虫の観察会	10/14(日)	30	41	

		(14) 珍しい植物の観察会	10/21(日)	30	37	
		(15) 木の実の観察会	10/28(日)	30	37	
		(16) 鳥の渡り	11/24(土)	30	25	
		(17) 紅葉の観察会	11/25(日)	30	26	
		(18) 針葉樹の観察会	12/16(日)	30	10	
		(19) 冬鳥の観察会 (1)	12/22(土)	30	3	
		(20) 越冬昆虫の観察会	1/13(日)	30	41	
		(21) 冬鳥の観察会 (2)	1/19(土)	30	22	
		(22) 樹皮・樹形の観察会	1/27(日)	30	18	
		(23) 冬鳥の観察会 (3)	2/16(土)	30	26	
		(24) 冬芽の観察会	2/24(日)	30	14	
		(25) 冬鳥の観察会 (4)	3/15(土)	30	40	
		(26) 春の野草の観察会	3/23(日)	30	28	実績 24 回
		森の 工作教室	木竹を使った工作教室 (17 回)	4/14(土)～ 3/8(土)	30	570
ミニ門松作り (1 回)	12/8(土)		30	31	実績 18 回	
自然 観察 学習 館	学習 館 行事	① 植物の写真を撮とろう講座(1)	4/29(日)	30	19	
		② お茶摘み大会	5/3(木祝)	500	543	
		③ 植物の写真を撮とろう講座(2)	5/13(日)	30	10	
		④ きのこの観察会	6/17(日)	40	41	
		⑤ セミの羽化の観察会	7/31(火)	50	42	
		⑥ 皆既月食観察会	8/28(火)	50	-	曇天中止
		⑦ 夏の星座観察会	9/23(日)	50	—	曇天中止
		⑧ どんぐりクッキーを作ろう	10/14(日)	60	45	
		⑨ 万博ネイチャーラリー	11/3(土)		2462	
		⑩ 草木染め	11/11(日)	30	37	
		⑪ クリスマスリース作り	12/15(土)	50	45	
		⑫ 冬の野鳥観察講座	2/10(日)	50	12	
		⑬ 冬の星座観望会	2/23(土)	50	26	実績 11 回

○ これらのうち、「自然観察ガイド」及び「工作教室」は、学習館の運営に協力するボランティア団体「指導リーダーの会」によって企画、実施され、「学習館行事」は学習館指導員が、「指導リーダーの会」のほか、「日本野鳥の会吹田支部」、「シニア自然大学」、「大阪府茶業協同組合」、「A0A」（天体観察愛好グループ）などの協力を得て実施しているものである。

○ これらの催しのうち 10 行事を抽出して、参加者の満足度の調査を実施した。

全体では参加者の約 94%から「満足」の回答を得ているが、満足度の低かったもの、要望の多かったものについては内容、運営方法に改善を加えることとしており、平成 19 年度においては、これまで曇天の場合中止にしていた星座観察会に、曇雨天用プログラムを用意し、天候に左右されることなく参加者に楽しんでいただけるよう変更したほか、平成 20 年度は、ボランティア団体と調整のうえ、新たに「季節の植物観察ガイド」（毎月開催）を新設するなど行事の回数を増加する予定である。

○ 自然観察学習館では、当公園内に生息する動植物の季節展示のほか、当公園の自然をテーマとした地域の写真家の作品や今年度初めて巣立ったオオタカの記録などの特別展示を行った。（展示内容は次表のとおり）

季節展示状況 (単位：人)

展 示 名	期 間	入館者数
春の自然展	(H19)2月15日～4月17日	7,207 (4.1～4.17)
野鳥展	4月19日～5月29日	20,469
水と生物展	5月31日～7月10日	9,559
夏の自然展	7月12日～8月28日	8,413
初秋の自然展	8月30日～9月25日	7,292
秋の自然展	9月27日～12月4日	46,830
冬の自然展	12月6日～2月12日	8,173
春の自然展	(H20)2月14日～4月15日	19,140 (2.14～3.31)

特別展示状況 (単位：人)

展 示 名	期 間	入館者数
植物からのメッセージ 【河面 堯】	4月19日～5月29日	21,779
花ごよみ（万博の四季） 【猪熊 兼比古】	6月7日～7月3日	5,340
写真で見る万博公園の野鳥 【有賀 憲介】	10月1日～10月31日	21,770
オオタカの子育て 【廣瀬達也 稲波誠 有賀憲介】	8月26日～9月30日	8,749

【学校等への教育の場の提供】

- 京都大学及びNPO 法人里山倶楽部等と連携して、近隣の中学校を対象に学習館及び当公園の緑の循環システムヤード（植物残材・チップ・堆肥化ヤード、スターリングエンジン・足湯）をフィールドとした環境教育プログラムを試験的に実施した。

環境教育プログラム実施状況

学 校 名	実 施 日	参 加 者
吹田市立古江台中学校	9月24日	1・2年生20名
吹田市立竹見台中学校	11月2日	1年生1クラス39名

- 小・中・高校教員の環境教育現地研修会「環境教育における万博記念公園の利用」を大阪府教育センターと共同で実施した。当該研修では、機構職員がボランティア団体やNPOと協力して「自立した森づくり」や「緑の循環システム」の取組状況の説明及び現地案内、学習館での木工実習の指導などを行った（8月22日、参加教員50名）。
- （財）大阪府立国際児童文学館との共催イベントとして、学習館と文学館職員の連携のもと、公園の森で自然にふれ、その豊かさを学びながら園内で木の実や木の葉などの自然の素材を集め、一つの物語風の貼り絵を製作する催し「へんてこ森へいこう」を学習館において開催し、でき上がった作品については、学習館と文学館で期間を限定して展示した（11月23日、参加者数33名）。
- 教職員の研修の場として公園を利用してもらうため、周辺の教育委員会に学習館や学習プログラムのPRを行ったところ、吹田市及び高槻市教育委員会から園内視察の依頼があり、自立した森づくり・緑の循環システム等の説明や学習館・堆肥化ヤード等の現地案内を行った（2月26日、3月6日）。
- 平成17年度から上記研修会及び学習館・学習プログラムのPRを行うなど公園の利用促進を働きかけた結果、「生活科・総合的な学習の時間」として学習館を使用した学校数等は、次表のとおりとなった。なお、受入れに当たっては、学習館の運営に協力するボランティア団体「ソラードの会」の協力を得て実施した。

年度別一覧表

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
学校数等	6(6)	17(23)	27(36)	37(40)	37(40)
延べ人数	463人	1,904人	3,814人	3,393人	3,377人

※学校数の（ ）は延べ受入れ回数

【アズキ火山灰層】

- 平成 17 年の春に吹田地学会会員により機構所有地内(ホテル阪急エキスポパーク南側の斜面)で確認された「アズキ火山灰層」の露頭を、地方自治体、学校、ボランティア団体等と連携して、地学の授業のみならず、公園のある千里丘陵の成り立ちの啓発に積極的に活用していくこととした。19 年度の取組は次のとおりである。
 - ・吹田市立博物館主催のアズキ火山灰層(ホテル阪急エキスポパーク前)及びピンク火山灰層(博物館敷地内)を見学するバスツアーが実施され、吹田地学会と共同して現地説明等を行った。(5月12日、参加人数30名)
 - ・アズキ火山灰層観察スポットに、説明案内サインを設置した。(6月15日)
 - ・吹田市立津雲台小学校からアズキ火山灰層をテーマとした理科の授業(6年生)を行いたい旨の依頼があり、当公園に露頭する火山灰を教材の見本として提供した。(10月4日)
 - ・きしわだ自然資料館(岸和田市)主催のイベント(吹田市や豊中市の地層等のバス見学会)が開催され、吹田地学会と共同してアズキ火山灰層の露頭地並びに学習館の展示物について現地説明等を行った。(開催日:1月26日、対象:小学生以上40名)
 - ・大阪市立自然史博物館及び吹田地学会の協力のもと、学習館においてアズキ火山灰層の露頭面の実物展示を行うため、現地において表層を剥ぎ取り、展示用パネルを作成した。(平成20年度に、学習館及び吹田市立博物館でパネル展示予定)

※ 大阪層群のアズキ火山灰層

1947 年から千里丘陵で天然ガス開発のための詳細な地質調査が実施され、この大阪層群の研究は故市原実大阪市立大学名誉教授によってまとめられ、地質学における世界的レベルの業績とされている。

この研究を進めるうえで地質年代確定の鍵層とされたのが「アズキ火山灰層」であり、最初に現在の万国博記念館付近で発見された。

1990 年代になって、アズキ火山灰層は 90 万年前の大分県耶馬溪付近の火山の巨大噴火の灰が降り積もって形成されたことが確認され、この層は関東地方でも確認されていることから、全国的にも地質年代確定の鍵層の役割を果たしている。

なお、同じ火山の 100 万年前の巨大噴火によって形成された火山灰層はピンク火山灰層と呼ばれ、これも吹田市立博物館の敷地内に露頭している。

しかし、アズキ・ピンク火山灰層を含む大阪層群の露頭地の多くは千里ニュータウン、万博会場の開発とその後の周辺の宅地開発によって失われていた。

【その他の地域社会への積極的な貢献】

- 地域社会へ積極的に貢献するため、NPO 法人等と協働して、次のような活動を行った。

主な活動内容

活動内容	団体名等	実施日等	参加 延人数
市民参画イベント「筍間伐ボランティア体験」	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	4月計6日間	58人
吹田市障害者交流センターの入所者を対象とした環境保全体験支援（筍間伐体験）	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	4月計2日間	62人
(財)ドナルド・マクドナルド・ハウスの障害児等を対象とした環境保全体験（筍間伐体験）	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	4月26日	15人
大阪府木材連合会の依頼を受けて、当公園内で林業就業支援講習会	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	5月計8日間	120人
大阪府立茨木高等学校の生徒を対象とした環境保全体験学習支援（竹林間伐体験）	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	7月計2日間	200人
吹田市さつき福祉会へ障害者等を対象とした七夕の催事に係る支援	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	7月2日	—
(財)ドナルド・マクドナルド・ハウスとの連携により、イラク人難病児等を対象とした日本の文化体験プログラム（竹の水鉄砲を使った打ち水体験）を当公園内で実施	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	8月16日	8人
大阪府立山田高等学校を対象とした環境保全体験学習支援（文化祭で使用する竹の間伐）	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	9月11日	13人
社会福祉法人さつき福祉会との連携による障害者の就労支援に係るインターンの受け入れ	NPO 法人大阪府 民循環型社会推 進機構	9～3月計10 日間	135人
大阪府ニートサポート事業（就労訓練事業）に係る若年未就労者をインターンとして受け入れ	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	10～3月計18 日間	25人
対人関係基礎能力習得カレッジ（就労訓練事業）に係る未就労者をインターンとして受け入れ	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	10～3月計32 日間	63人
「職場体験学習」の支援として吹田市立西山田中学校の生徒の受け入れ	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	2月計2日間	6人
大阪大学工学部環境工学基礎演習Ⅱとして、学生をインターンとして受け入れ	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	10～1月計11 日間	123人
大阪大学工学部環境工学基礎演習Ⅱとして、インターンとして受け入れてきた学生が万博公園で学んだことを発表する最終報告会を実施	NPO 法人野と森 の遊び文化協会	1月30日	40人
大阪府地球温暖化防止活動推進センター主催の	NPO 法人里山倶	11月29日	—

「一村一品・知恵の環づくり」事業大阪大会において、NPO 法人里山倶楽部が、当公園で取り組んでいる「里山エネルギー装置の開発」を発表し、2位（27 団体中、予選含む）に入賞	楽部		
大阪府主催の大阪環境パートナーシップネットワーク「かけはし」顔見せ交流会において、循環型モデルパークとしての当公園での活動についての事例報告	NPO 法人インクルージョンプログラムラボトリほか	11 月 24 日	—
エコフェスタ及び関西文化の日に、「園内地産地消」をテーマにエコエネルギーツアーを開催	当公園内で活動している NPO 法人等全団体(8 団体)	11 月 11 日, 18 日	3, 159 人
「万博公園ふれあいの日」に、スタンプラリー形式でエコ体験ができる「万博エコラリー」を開催	当公園内で活動している NPO 法人等全団体(8 団体)	3 月 16 日	591 人

- 当公園の廃棄物縮減、リサイクルの推進、省資源・省エネルギー対策などの取組をまとめたパンフレット『万博公園 ECOLOGICAL SYSTEM』（平成 17 年度に刊行したものの改訂版）を平成 20 年 3 月に発行し、来園者への啓発に使用している。

③ 地域の防災に関する施策への貢献

- 大阪府地域防災計画に基づき、地域で独立して災害応急活動を実施するため、大阪府が万博公園内に北部広域防災活動拠点を整備した。その広域防災拠点の機能の一つとしての備蓄倉庫用地の貸付をはじめ、大規模災害の発生時における後方支援活動拠点等のほか、隣接自治体である吹田市・茨木市の広域避難場所としても公園を提供している。

自治体等への協力等の状況

平成 19 年 5 月 22 日・23 日	吹田市消防本部による水難救助訓練への協力
平成 19 年 8 月 17 日・9 月 4 日	吹田市消防本部による吹田市地域防災総合訓練への協力
平成 20 年 2 月 12 日	大阪府地域防災計画に基づく後方支援活動拠点運用調整会議の開催及び現地踏査への協力
平成 20 年 3 月 2 日	吹田消防署が開催した自治体消防制度発足 60 周年記念式典において、吹田市長から感謝状を受章

○ 公園の5か所の井戸は、大規模な地震等の災害が発生し水道の供給が停止した場合に、飲用水以外の生活用水を確保することを目的として、近隣の被災者へ井戸水の提供について協力する「災害時協力井戸」として大阪府に登録している。

○ 大阪府からドクターヘリの緊急離着陸場所の提供について依頼があり、平成19年12月12日に、大阪府・吹田消防署・池田消防署による大阪府ドクターヘリ運航シミュレーション訓練への協力を行った上で、平成20年1月から、東の広場等を当該離着陸場所として提供することとした（平成20年1月16日から運航開始）。

広域防災拠点・避難場所の提供一覧

地方公共団体等	指定内容	使用場所	承認時期
大阪府	陸上輸送基地・後方支援活動拠点	スポーツ広場、南第1・2駐車場	平成7年12月
	北部広域防災拠点の臨時ヘリポート及び活動の場	東駐車場、万博記念競技場	平成14年8月
	国民保護避難施設（武力攻撃事態等における近隣市の避難場所）	公園全体	平成19年3月
	ドクターヘリの緊急離着陸場	東の広場、運動場、南第2駐車場	平成20年1月
吹田市	広域避難場所	公園全体	昭和57年1月
吹田市消防本部	ヘリコプター臨時離着陸場	東の広場	昭和55年
茨木市	広域避難地	公園全体	昭和55年10月
大阪府下消防長会	消防応援隊集結場所	駐車場	平成8年

【基金事業】

(1) 効果的な助成金の交付

① 助成の対象

○ 基金事業においては、日本万国博覧会の成功を記念するにふさわしいものとして次の活動に対し助成金を交付することとしている。

平成19年度においては、基金事業を取り巻く諸環境の変化を踏まえ、万博の成功を記念するためによりふさわしいものを、という視点に立って、民間の有識者から構成される基金事業審査会等の意見も聴きながら、助成の重点事項を明確化するなど、より効果的な助成金の交付となるよう努めた。

イ 国際相互理解の促進に資する活動

- ・国際文化交流、国際親善に寄与する活動
- ・自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動
- ・学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動

ロ 文化的活動

- ・日本の伝統文化の伝承及び振興活動
- ・芸術及び地域文化に関する活動

○ 広報活動の充実

平成 20 年度助成事業の募集に当たっては、助成対象や申請手続等を明確にした募集要領を機構ホームページに掲載（平成 19 年 6 月 27 日）するとともに官報に登載（平成 19 年 7 月 2 日）した。

さらに、吹田市記者クラブ、大阪府政記者クラブへ資料提供を行い、あわせて、文化庁、各都道府県の国際交流・文化担当部署、(独) 科学技術振興機構、国立・公立・私立大学協会、全国の主要大学（214 校）、全国の地方紙（46 紙）、助成重点事項に該当する事業と関連の深い学会（医学、化学、物理、電子情報通信）、都道府県の文化担当課、日本 NPO センターに対しても、公募案内及び基金事業の周知依頼を行った。（6 月 26 日）

また、機構で毎月発行している『万博公園だより』を活用するとともに、関係機関と連携した広報活動の充実を図るため、上記学会等に機構ホームページとのリンク設定も依頼し、大阪府、日本化学会、日本物理学会、応用物理学会、(独) 科学技術振興機構との相互リンク設定を行った。（9 月）

また、基金事業の成果を広く社会に普及・浸透させるため、事業者には、万博基金からの助成を受けて実施されたことを印刷物、ホームページ、看板等に示す際の「万博表示」の例（下記）を示し、助成金交付の条件として義務付けた。

助成



独立行政法人日本万国博覧会記念機構

EXPO'70

Commemorative Organization for The Japan World Exposition '70

○ 申請の概要

平成 20 年度助成事業の募集に当たっては、昨年度よりも広報活動の充実を図ったが、申請件数は 161 件となり、19 年度募集分の 192 件に比べ 31 件減少した。

この減少には、種々の原因が複合的に絡み合っているものと推察されるが、主な理由としては次のことが考えられる。

- ① 重点事項該当事業の優先採択の明確化

19年度助成事業から、重点事項にかかる申請件数の増加を図るため、募集要項に重点事項（「健康」・「地球環境」・「基礎的学術研究」）をわかりやすいところに記載するとともに、申請書において申請者自らに記入させる欄を設けた。

これにより、重点事項に該当しない事業については、採択率が低くなると想定し、申請を控えた可能性が考えられる。

（なお、助成事業の現地調査においても、事業者は重点事項に該当しない場合は事務作業、手続き及び採択の見込みを勘案し、申請を行わないこともあるとの意見を聞いている。）

② 採択率の低下

ホームページには、過年度の交付決定状況を公表しているが、長期化する低金利の影響を受けた助成金総額減少の状況の下で、平成18年度に創設した「万博公園賑わい創出支援事業」への配分もあいまって、一般の助成金の総額が減少している。このため、採択割合（交付決定額／申請額）も低下（15年度3割超から19年度2割以下）していることを申請者が勘案して、申請を控えた可能性が考えられる。

③ 採択の制限により、過去に助成を受けた事業者が申請を控えた

中期目標期間中に採択される事業は、重点事項、公園で実施するなどの事業を除き、原則1回であるため、既に交付決定を受けた事業者が申請を控えた可能性が考えられる。

平成19年度助成金交付決定状況

(単位：件、千円)

事業区分	国内事業		国外事業		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	(120)	(477,114)	(48)	(411,562)	(168)	(888,676)
	58	115,000	14	55,500	72	170,500
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	(45)	(220,357)	(30)	(287,688)	(75)	(508,045)
	13	23,500	6	31,000	19	54,500
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	(59)	(203,190)	(11)	(68,150)	(70)	(271,340)
	34	73,600	3	8,500	37	82,100
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	(16)	(53,567)	(7)	(55,724)	(23)	(109,291)
	11	17,900	5	16,000	16	33,900
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	(24)	(11,900)	—	—	(24)	(11,900)
	3	1,500	—	—	3	1,500
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	(8)	(4,000)	—	—	(8)	(4,000)
	0	0	—	—	0	0
芸術及び地域文化に関する活動	(16)	(7,900)	—	—	(16)	(7,900)
	3	1,500	—	—	3	1,500
合計	(144)	(489,014)	(48)	(411,562)	(192)	(900,576)
	61	116,500	14	55,500	75	172,000

(注) 上段 () の数字は申請件数及び申請額である。

平成20年度助成金交付決定状況

(単位：件、千円)

事業区分	国内事業		国外事業		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	(103)	(400,493)	(39)	(317,204)	(142)	(717,697)
	54	134,400	17	36,100	71	170,500
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	(34)	(174,388)	(26)	(234,809)	(60)	(409,197)
	16	43,900	10	24,200	26	68,100
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	(55)	(179,490)	(7)	(36,485)	(62)	(215,975)
	28	70,300	4	8,000	32	78,300
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	(14)	(46,615)	(6)	(45,910)	(20)	(92,525)
	10	20,200	3	3,900	13	24,100
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	(19)	(22,676)	—	—	(19)	(22,676)
	6	3,000	—	—	6	3,000
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	(5)	(2,650)	—	—	(5)	(2,650)
	3	1,500	—	—	3	1,500
芸術及び地域文化に関する活動	(14)	(20,026)	—	—	(14)	(20,026)
	3	1,500	—	—	3	1,500
合計	(122)	(423,169)	(39)	(317,204)	(161)	(740,373)
	60	137,400	17	36,100	77	173,500

(注) 上段 () の数字は申請件数及び申請額である。

・ 募集情報の入手先

なお、今回の申請書から、助成事業情報の入手先並びに機構リーフレット等の配布及び広報ビデオの上映にかかる計画についての記載欄を設けており、今後の効果的な広報活動に活用することとしている。

この回答結果では、情報入手先として「機構ホームページ」が全体の約70%（機構HP 121件/延べ回答 176件）を占めていた。今後、募集内容や申請手続きなど、よりわかりやすくなるよう工夫に努めるとともに、助成を受けた事業内容を紹介する「基金事業ニュース」欄を拡充し、どのような事業が万博からの助成を受けているかをわかりやすく発信していくこととした。

（情報入手先）

機構HPからの情報入手 計121件（延べ回答 176件） 未回答（国内1件 国外2件）

	当機構HP	万博公園 だより	官報	新聞	地方公共 団体	学会	大学	日本大使 館または 総領事館	その他	合計	申請件数
国内	116 (71)	0	1	0	9 (2)	3 (3)	11 (11)	0	12 (6)	152 (93)	138
国外	5 (3)	0	0	0	0	1 (1)	1 (1)	16 (5)	1 (1)	24 (11)	23
合計	121 (74)	0	1	0	9 (2)	4 (4)	12 (12)	16 (5)	13 (7)	176 (104)	161

（ ）は、重点事項該当事業からの回答

（ ）

平成17年度助成事業から創設した「補欠事業制度」により、平成19年度は、12事業（助成額890万円）を追加採択し、交付決定後の辞退及び事業費の縮減等により生じる財源の有効活用を図った。

平成19年度助成金の補欠繰上げ交付決定状況

（単位：件、千円）

事業区分	国内事業	
	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	5	5,500
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	4	3,500
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	1	2,000
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	0	0
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	7	3,400
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	2	1,000
芸術及び地域文化に関する活動	5	2,400
合 計	12	8,900

平成 20 年度助成金 補欠事業選定状況

(単位：件、千円)

事業区分	国内事業		国外事業		合計	
	件数	金額	件	金額	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	9	15,500	0	0	9	15,500
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	2	4,000	0	0	2	4,000
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	6	9,500	0	0	6	9,500
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	1	2,000	0	0	1	2,000
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	4	2,000	—	—	4	2,000
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	1	500	—	—	1	500
芸術及び地域文化に関する活動	3	1,500	—	—	3	1,500
合計	13	17,500	0	0	13	17,500

○ 公園事業と基金事業との連携（「万博公園賑わい創出支援事業」の推進）

平成 18 年度助成事業から、公園事業と基金事業との連携をより深め、相乗効果を増大させる取組みとして、万博公園内で実施される助成対象活動を支援する「万博公園賑わい創出支援事業」を創設した。

この事業は、昆虫などの自然観察や子どもたちを対象とした日本の伝統的な遊びの体験活動、園内の廃材などを利用した環境学習などの活動を進める各種のボランティア活動、自然環境保全等に関する研究発表、公園を会場とするイベント等を助成対象とするなど、万博公園内で実施される諸活動を幅広く助成しようとするものである。

また、助成率を 2/3、通年募集とするなどこれまでの助成事業に比べ有利な取扱いとし、さらに平成 19 年度助成事業からは、助成限度額を 5,000 千円（18 年度 3,000 千円）に引き上げ、助成予算を 50,000 千円（18 年度 15,000 千円）に拡充するとともに、国内各地において開催する万博当時の展示品の展示会等の事業を助成対象に加えるなど、事業メニューも充実することとした。

19 年度は、吹奏楽の演奏等を通じて青少年健全育成を図る「友愛のサウンド」、万博開催当時のパビリオンの様子を携帯電話の利用を通じて楽しむスタンプラリー「モバイルネイチャーラリー」、環境と人間の健康を最優先し、持続可能な社会の在り方を志向するライフスタイルをテーマとした「ロハスフェスタ」などの事業に対し、助成を行った。

・平成19年度実績 15件 50,197千円 (事業概要 別紙1)

また、本事業を活用し、より積極的に公園の賑わいを創出し、基金事業と公園事業との相乗効果を増大させるとともに、園内及びその周辺施設等との更なる連携の強化等を図っていくため、第12回基金事業審査会(平成19年9月14日開催)において、「万博公園賑わい創出支援事業」の選考にかかる助成効果の基本的考え方について意見を聴取し、機構が助成効果を審査するに当たっての運用基準として定めた。

(採択基準第2条第3号に規定する助成効果の基本的考え方)

- (イ) 万博公園を活用した新たな魅力創造と先駆的なプログラム開発に関する事業
- (ロ) 万博公園の特性を活かし、集客力の向上に資する事業
- (ハ) 万博遺産の継承を図る事業(公園外も可)
- (ニ) 園内及びその周辺施設等と連携した事業
- (ホ) 万博公園において、継続的かつ安定的に実施できる事業

○ 基金事業のあり方に関する検討

外部の有識者などの知見を活用し、平成19年3月に取りまとめを行った「日本万国博覧会記念基金事業のあり方に関する検討委員会」の報告書では、基金事業の今後の方向性として、①助成の重点化、②助成対象事業数の絞込み、③助成対象となる事業形態の見直し、の3点に留意しながら見直しを進め、限られた助成金で最大限の助成効果を上げていくこととされた。

この報告書の考え方を基本として、審査会、評議員会の委員から伺ったご意見を採り入れ、基金事業の特色である万博公園との連携をこれまで以上により強く打ち出しながら、今日の基金事業を取り巻く諸環境、国民のニーズの変化、長期化する低金利の影響による運用益の低迷を踏まえ、報告書においても強化すべきとされた『万博ならではの』といえる助成について検討した。

さらに、「独立行政法人整理合理化計画」(平成19年12月24日閣議決定)において、基金事業については「環境・公園に関連する事業等への助成に重点化するほか、万博記念公園の施設整備や低廉な公園入場料維持のため、公園事業への繰入れを増やすこと」とされたことから、万博記念機構法の趣旨を踏まえ、一般の助成事業における「環境」への重点化とともに、助成予算の配分、専門委員会における委員構成の再編などについて検討し、併せてこれまで積極的に取り組んできた「公園」における「万博公園賑わい創出支援事業」の推進を図ることとした。

② 助成の重点事項

- 効果的な助成金の交付等の観点から、平成 14 年度助成事業以降、助成対象となる項目の中で重点事項を設けている。

この重点事項の選定に当たっては、有識者懇談会の提言（平成 13 年 3 月）の趣旨を踏まえつつ、社会的注目度や資金的な支援の必要性等を考慮して毎年度決定しており、平成 20 年度助成事業については、次の 3 項目とした。

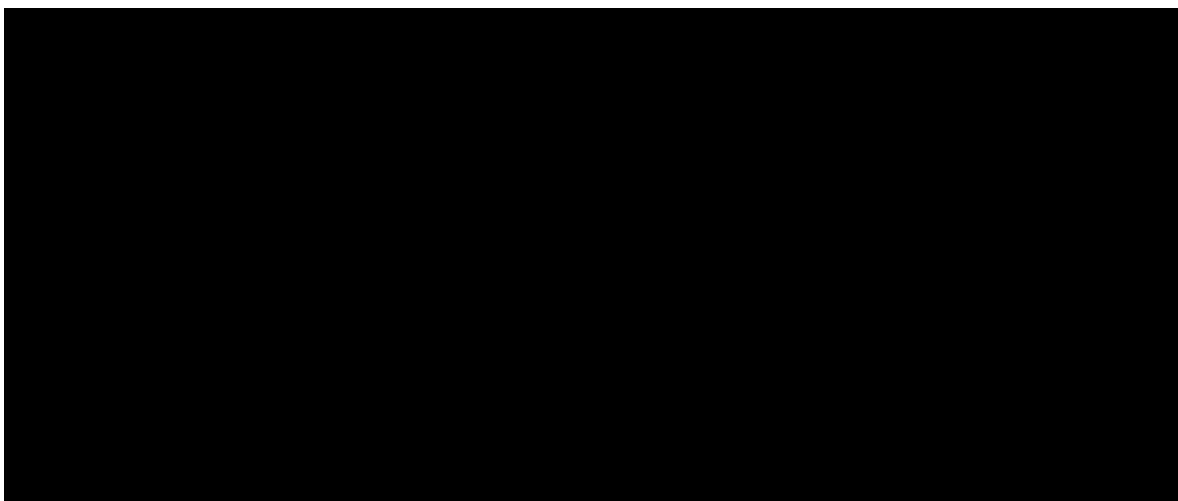
- ・ 健康の維持増進に寄与する先端科学技術に関する事業
- ・ 地球環境の保全をテーマとする事業
- ・ 人類の幸せに貢献する基礎的な学術研究に関する事業

（参考）将来に向けた協会（当時）の事業運営のあり方等について、経済界等の有識者からなる有識者懇談会より、平成 13 年 3 月 28 日「21 世紀における日本万国博覧会記念協会の事業のあり方等について」の提言を受けており、その中で、基金事業については「人類と自然環境との共生を視野においた活動に対する支援に重点をおくなど特色をより明確にしていくことが望まれる。」とされている。

- ・ 重点事項については、平成 20 年度助成事業の募集要項に併せて平成 19 年 7 月 2 日の官報に登載するとともにホームページに掲載したほか、重点事項にかかる事業の申請件数を増加させるため、様々な広報媒体を活用して周知を図った。（詳細については、2. (1) ①「助成の対象」に記載）

この結果、20 年度募集分全体の申請件数は 161 件となり、19 年度募集分の 192 件に比べ 31 件減少したにもかかわらず、そのうち重点事項に係る申請件数は 93 件と、19 年度募集分の 68 件を 25 件上回った。

重点事項に係る助成金の状況



○ 審査方法等の工夫

申請者に対しては、重点事項について、平成 20 年度助成事業の募集要項にも引き続き明記するとともに、申請書において重点事項に該当するかどうかを申請者自らに記入させる欄を設けるなど、重点事項にかかる事業の申請件数の増加を図るための工夫を行った。

各専門委員会に対しては、当機構から選考に当たっての評価項目を示し、重点事項であることなどを勘案された上で個々の申請内容が慎重に検討されるよう、審査方法を工夫した。また、対象事業費、助成対象費目等の精査に加え、万博表示、市民公開講座の開催など助成成果を積極的に社会に発信することに努めている事業については、機構事務局評価として各専門委員会に示し、審査の参考にしていただいた。

(専門委員会での評価項目)

- ① 事業の広域性〔参加国数、参加者数〕
又は、文化活動振興への寄与度（後継者の育成）※
- ② 事業内容の重要度〔重点事項に該当するものを考慮〕
- ③ 事業のテーマや実施内容の具体性
- ④ 事業実施効果の公益性

※「万博の成功を記念するにふさわしい文化的活動」の評価項目

各委員は、個々の事業についての 4 つの評価項目について、3 段階評価（A：助成する価値がある。B：助成してもよい。C：助成効果に疑問がある。）を行った上、総合評価していただいた。

※ 評価の配分率 A：30%、B：30%、C：40%で採点

（個別評価については、各委員が事業内容を勘案して適宜採点）

（ただし、各委員で特に推奨すべき事業があれば S 評価を若干数選定）

- ・ なお、専門委員会での採択事業の審議については、個々の事業ごとに評価をつけた評価シートを作成し、各専門委員会による協議の上、審査作業を行った。

その上で、個別審査がなされ、評点結果を協議し予算配分枠までにランクインした事業を採択事業、それに準ずる評価の事業を補欠事業とし、それ以下にランクされた事業は不採択事業とした。いずれの専門委員会も、優先すべき事業からランク付けがなされた。

- ・ 各専門委員会は、審査会に審査結果を報告し、審査会ではその結果を踏まえ、総合調整を行った上で採択案をまとめ、機構に答申した。
- ・ この結果、平成 20 年度助成事業の重点事項に係る採択件数は、55 件（交付決定額 118,700 千円）となり、交付決定における採択割合は、件数で 71%（55 件/77 件）、金額で 68%（118,700 千円/173,500 千円）となった。

(参考) 平成 19 年度助成事業の重点事項採択

件数で 67% (50 件/75 件)、金額で 60% (102,500 千円/172,000 千円)

(2) 助成金の交付に係る選考手続等における客観性及び透明性の確保

① 基金事業審査会の開催

○ 基金事業審査会は、助成金交付事業の適正な運営及び助成対象事業の公正な選考を行うために設置している。助成分野にかかる事業を更に専門的な見地から審査するため、審査会に専門委員会を設置（平成16年12月1日）し、平成17年度助成事業の選考から、審査会は、専門委員会における審査結果を踏まえ、総合調整を行った上で採択案をまとめ、機構に答申することとしている。

○ 委員の委嘱

基金事業審査会の委員の選定については、審査会の運営方法をより明確化するため、国の「審議会等の運営に関する指針」を参考に制定した「基金事業審査会委員選定に関する指針」（平成18年10月1日実施）において、委員の任期（2期4年）、女性委員の比率（30%以上）などを規定している。

基金事業審査会委員の任期（平成17年12月15日から平成19年12月14日まで）の満了に伴い、次期審査会委員の選定に当たっては、この指針及び分科会での評価等を踏まえ、関西地域以外の地域の専門家を含めて、新任4名、再任3名、計7名の委員を平成19年12月15日から2年間の任期で委嘱した。（別紙2）

○ 専門委員の委嘱

専門委員会の委員の任期は2年であるところを、前委員の任期（平成16年12月1日から平成18年11月30日まで）の満了時に、平成18年12月1日から今中期計画が終了する平成20年3月31日までとした。（別紙2）

○ 助成事業の選考

平成20年度助成事業については、「万博公園賑わい創出支援事業」を除き、平成19年9月1日から30日までの間募集を行い、申請の要件を具備しているか等を書類審査の上、平成19年10月31日に各専門委員会に審査を依頼した。

また、「万博公園賑わい創出支援事業」については、申請を随時受け付けており、平成19年度助成事業及び同20年度助成事業の選考について、基金事業審査会に諮問した。

○ 基金事業審査会の開催

助成事業の選考について、審査会に諮問し、答申を受けた。

・第10回基金事業審査会（諮問：4月13日 答申：5月1日）

平成 19 年度万博公園賑わい創出支援事業の申請(3 件)を受け、開催。

・第 11 回基金事業審査会（諮問：6 月 12 日 答申：6 月 21 日）

平成 19 年度万博公園賑わい創出支援事業の申請(6 件)を受け、開催。

また、併せて基金事業審査会の委員の方々に、平成 18 年度に設置した「日本万国博覧会記念基金事業のあり方に関する検討委員会」の報告書の概要を説明するとともに、報告書の考え方を基本として、機構としての今後の基金事業のあり方等についての意見を聴取した。

・第 12 回基金事業審査会（9 月 14 日開催）

平成 19 年度万博公園賑わい創出支援事業の申請(4 件)を受け、審査会の選考を経て答申を受けた。また、今後の基金事業の推進に向けて、「基金事業と公園事業とのさらなる連携強化」「万博ならではの助成の強化（他助成団体との差別化）」等を図るため、「万博公園賑わい創出支援事業」における「助成効果の基本的考え方」について意見聴取などを行った。（詳細については、2. (1)

①「○ 公園事業と基金事業との連携」に記載）

【議事要旨（平成 19 年 10 月 25 日 ホームページ掲載）】

（諮問案件）平成 19 年度万博公園賑わい創出支援事業採択案（4 件）

<主な意見>

- ・事業の助成効果を高めるため、主催者と機構が連携して広報活動を充実することが必要。
- ・申請を受ける際、事業名でその内容がわかるよう、主催者にアドバイスなり、提案を行うことも考えてみてはどうか。
- ・今後も、主催者とよく意見交換しながら、万博公園の新しい魅力づくりや集客効果につながる工夫をしてほしい。

（報告案件）

- ・事後評価の実施について
- ・「万博機構分科会」の状況について（平成 18 年度における業務実績の評価結果）
- ・基金事業のあり方について

<主な意見>

- ・事後評価が、今後の審査の参考として活かせるよう整理し、基金事業の改善に役立ててほしい。
- ・「検討委員会」での基本的な考え方をもとに、ある分野に重点を絞った助成を行い、アピールしていくことも一つの方法ではないか。
- ・国外施設整備の場合は、日本の万博基金を財源にしていることを、その国の人たちにきちんとわかってもらえるようにするとともに、その後の活用にも注意して助成することが必要。

- ・第13回基金事業審査会（諮問：11月16日 答申：12月5日）
平成19年度万博公園賑わい創出支援事業の申請(3件)を受け、開催
- ・第14回基金事業審査会（2月1日開催）
新しく選任された委員の最初の審査会であるため、委員長を選出した。
その後、平成20年度助成事業（万博公園賑わい創出支援事業を除く）の選考にかかる各専門委員会の審査結果の報告及び精査後の追加の予算額（13,500千円）活用を踏まえ、審査会において助成事業が答申された。
また、今後の募集の重点化に向けて、21年度募集の重点事項についての意見聴取を行った。

【議事要旨（平成20年5月30日 ホームページ掲載）】

（諮問案件）

（万博公園賑わい創出支援事業を除く一般の助成事業）

採択 77件 1億7,350万円、補欠 13件 1,750万円、
不採択 71件 5億4,937万3千円

（万博公園賑わい創出支援事業）

採択 7件 2,818万6千円

この答申に基づき、平成20年度の助成事業者に交付決定通知を2月22日付けで行った。

（意見聴取案件）

平成21年度募集に係る「重点事項」について

機構から独立行政法人整理合理化計画（平成19年12月24日閣議決定）における「環境・公園に関連する事業等への重点化」など、基金事業を取り巻く状況について説明を行った。

<主な意見>

- ・募集の重点化については、今後の助成事業のあり方に大きくかかわるため、審査体制なども含めて、再度意見を聴取することとなった。

（報告事項）

- ・平成19年度補欠事業の採択状況について
- ・平成19年度助成事業における事後評価の実施結果について

専門委員会における審査状況 (単位:件、千円)

	審査		採択案		開催日
	件数	金額	件数	金額	
人文・社会部会	73	281,578	25	58,000	平成19年12月18日
理工部会	44	130,722	22	45,000	平成19年12月14日
生物部会	21	71,125	9	25,000	平成19年12月18日
国外事業者部会	23	256,948	13	32,000	平成19年12月26日
計	161	740,373	69	160,000	

- 審査会規程、専門委員会運営細則及び審査会名簿に加え、審査会及びその専門委員会委員の名簿をホームページで公表した。(別紙2)

② 申請者の利便性の向上

- 申請手続等の公開

平成20年度助成事業の募集に当たっては、ホームページに掲載するとともに、公募概要について、官報掲載、報道発表等を行った。さらに、大学、都道府県の国際交流・文化担当部署等の関係機関に対しても公募案内及び基金事業の周知依頼を行った。また、ホームページには、助成制度、申請から助成金の交付までの手続等の解説とともに、募集要項、申請書のほか基金事業実施関係規程、助成金の交付状況(平成15年度以降)、基金事業審査会及び専門委員会委員名簿についても公開し、すべてダウンロードできるようにしている。(詳細については、2.(1)①「広報活動の充実」に記載)

- 申請手続の簡素化

平成20年度助成事業の募集においても、申請者の負担を軽減するため、申請書への押印や見積書など一部の書類の添付を不用とした。また、交付決定事業者に対しては、助成金の交付を受けるまでの基本的事項を示した手引書を国内、国外事業者別に作成し、交付決定通知書とともに併せて送付(国外事業者については、英文の手引書を併せて作成し、外務省の回付を経て送付)した。

20年度交付決定事業者への手引書については、これまでの事業者からの相談への対応など機構のノウハウを活かし、助成金交付に当たっての留意点、添付書類などについて、記載内容の改善を図るとともにホームページで公開し、ダウンロードできるようにしている。

- 助成金の交付状況

助成金の交付状況等については、平成19年5月29日に平成20年度助成事業の交

付決定状況をホームページで公開するとともに、交付実績については、事業の完了時期に合わせて順次公開した。

○ 実地調査

助成事業の成果等を把握するため、国内事業では、実地調査の年間スケジュールを作成し、助成事業の事業形態、地域性等を考慮し、11事業の実地調査を行った。

調査結果は、いずれの事業においても経理状況や事業実施状況は適正であり、事業会場の案内看板、ポスター、会議資料等において、万博基金からの助成を受けていることを示す「万博表示」の明示がなされていた。

また、国外事業については、国内事業と同様、事業者から提出された完了実績報告書や在外公館の協力を得て事業実施状況を把握するとともに、外務省、在外公館の協力により平成18年度に実施した国外の施設等の管理運営状況調査(43件)などを参考に、平成19年度はパラグアイ・ウルグアイの現地調査(平成20年2月28日～3月12日)を行った。

現地では、次世代育成等に係る施設(パラグアイ)及び日本庭園(ウルグアイ)の6事業及び20年度助成事業の予定地1か所(パラグアイ)を調査した。

助成施設においては、事業者が維持管理に当たっての組織体制を構築し、利用に当たっての定期的な会議の開催などを通じて当該施設の継続的な有効活用を努めていた。また、パラグアイで調査した助成施設では、「万博表示」を施設正面などのわかりやすい場所に表示していた。(機構ホームページの「基金事業ニュース」欄にも掲載)

これらの調査結果を踏まえ、第2期中期計画期間中の助成事業の在り方などについて検討した。

○ 助成事業の事後評価

個々の助成事業が、当初計画どおりに的確かつ効果的に実施されたか、また、どのような事業成果、波及効果があったかを確認・検証し、今後の事業改善に反映させていくため、19年度助成事業から事後評価を本格実施した。

実施に当たっては、18年度助成事業における試行実施(48件)の結果を踏まえ、第12回基金事業審査会(9月14日開催)における意見聴取を経て、実施要項を策定した。(9月27日施行、19年4月から遡及適用)

19年度助成事業については、第14回基金事業審査会(平成20年2月1日開催)において、そのうち平成19年12月末までに助成金交付のための審査が終了した事業(30件)の評価結果を報告した。

また、平成20年度助成事業の募集要項には、事後評価を行う旨を明記した。

・事後評価実施要項

- ① 評価者：万博機構
- ② 対象：すべての助成事業
- ③ 評価時期：個々の事業について、完了実績報告書（助成事業の実施内容及び成果に関する報告書）の提出後に行う。
- ④ 評価項目：事業形態によって異なる評価シートを作成
（事業の総括、事業の実施状況、参加者等の意見の把握、支出における経費区分、広報計画など）

・評価の方法

事業者から事業完了後に提出される「助成事業の実施内容及び成果に関する報告書」及び機構が自ら実地調査した結果に基づき、各評価項目について、「5：極めて良好、4：良好、3：普通、2：不十分、1：極めて不十分」の5段階による採点を行い、これを集計したものを総合評価とした。

（事業の実施結果が当初の期待水準に達している場合を「3：普通」として評価しており、申請内容どおり実施されている事業であれば、評点合計は100点中60点となる。）

・評価結果

平成20年3月31日現在、助成金の交付のための審査が終了した61事業の平均点は61.8点（分布：74点～55点）であり、個々の助成事業は概ね60点台であったことから、当初計画どおり実施されたものと分析している。

（評価の高い事業の特色）

- ・申請時の計画と比べ、事業実施時の方が、参加者、参加国数が増加している。
- ・多様な広報活動を実施し、多くのマスコミに取り上げられている。
- ・市民公開講座を開催するなど、事業成果の社会への発信に努めている。
- ・参加者へのアンケートを実施し、批判的な意見も含めて紹介するとともに、集計内容を詳細に分析している。また、参加者の満足度も高い。
- ・若手研究者の参加を促し、研究成果の発表の時間、形態を工夫している。
- ・事業者自らが、事業にかかる今後の課題等について検討し、その内容を取りまとめている。
- ・万博助成による事業であることを事業開始時に紹介しているほか、「万博表示」が人目を引きやすいところに表示されている。
- ・格安航空券を利用するなど、経費の削減に努めている。

(期待された評価水準に達していない事業の特色)

- ・申請時の計画と比べ、事業実施時の方が、参加者、参加国数が減少している。
- ・報告内容に具体性がない。事業総括が抽象的で、事業改善意欲が見受けられない。
- ・手引書に記載しているにもかかわらず、報告書及び領収書等の添付書類の補正が多い。
- ・申請時の計画と比べ、「万博表示」の印刷媒体等が少なくなっている。

・今後の検討課題

- (イ)申請者に広報活動の具体的な内容の記述を求めること。
- (ロ)申請者が事業の継続実施を予定している場合などは、申請時に参加者アンケート実施の有無及びその概要の記載を求めること。
- (ハ)参加者等が減少している場合、報告書にその具体的な理由及び対応方針の記載を求めること。
- (ニ)天候等やむを得ない理由により、参加者が当初計画に比べて激減した場合の、評価項目の見直し。
- (ホ)報告書の提出、領収書の添付等についての評価の算定方法の修正。
- (ヘ)評価結果の高い事業に対する採択の制限の見直し、優先助成対象への追加。

③ 基金の社会に対する浸透への工夫

- 基金による助成制度の概要とその意義等を広く社会に周知するため、ホームページでのPRや情報公開とともに、助成を受けた事業者に対して、基金の助成を受けていることが第三者にわかるような措置をとることを助成金の交付条件として義務付け、また、その事業者がホームページを開設している場合には、機構ホームページへのリンクを設定するよう要請した。

ホームページへのリンク設定状況 (単位：件)

	16年度	17年度	18年度	19年度
助成事業数	103	80	104	95
うちホームページ開設事業者数	59	68	74	70
うちリンク設定事業者数	59	68	74	70

(注) 助成事業数は、辞退、補欠を反映した件数

- 平成20年3月16日の「万博公園ふれあいの日」(入園者数67,449人)に、基金事業のリーフレットの配布等を行うなどのPR活動を行った。

- 各都道府県の国際交流・文化担当部署、主要大学及び全国の地方新聞社等に対し、

募集案内、基金事業の広報依頼を行うとともに、専門誌に募集案内、基金事業のPR記事を掲載するなど、マスコミ等を通じた積極的な広報に努めた。(詳細については、2. (1) ①「助成の対象」に記載)

(3) 基金の管理及び運用における客観性及び透明性の確保

① 内部組織体制の整備

- 基金の管理及び運用を適正に行うとともに、責任体制を明確にするため、平成19年4月20日に開催した役員及び幹部職員による「債券運用会議」において、平成19年度における債券運用方針を決定した。

(債券運用会議の構成)

役員(理事長・理事)、総務・事業部長、総務部次長、総務・経理課長
 ※事務局：基金課

- 運用方針の主な項目
 - ・市場流動性の高い債券(国債等10年債)を中心に運用する
 - ・助成金の支払い状況を踏まえながら、キャッシュ保有割合を低減させる

(参考)キャッシュ平残数値

(単位：千円)

	基金	余裕金
平成16年度	759,244 (4.04%)	873,483 (3.61%)
平成17年度	322,824 (1.72%)	445,610 (1.87%)
平成18年度	223,525 (1.19%)	178,864 (0.79%)
平成19年度	115,818 (0.61%)	120,862 (0.54%)

- 毎月開催の「債券運用会議」において、前月分までの運用資産明細表により、債券の償還、再運用、利金収入の状況や助成金の支払い状況等を報告した。

② 基金による運用益の使途の明確化

- 基金の管理・運用については、独立行政法人通則法及び独立行政法人日本万国博覧会記念機構法に基づき、日本万国博覧会記念基金管理規程、日本万国博覧会記念基金及び余裕金運用規程を定めており、これに基づき適正な管理・運用に努めた。
- また、透明性の確保の観点から、平成18年度中の基金の運用状況や運用益の使途について、平成19年10月3日にホームページで公表した。

3. 予算、収支計画及び資金計画

- 「イルミナイト万博」など新たなイベントの実施のほか、花の見所整備やこれに伴う四季イベントの開催等に加え、『万博公園だより』等の配布拡大やメディアへの広報活動の展開を行った結果、平成19年度の入園者数は、年度計画を上回る約1,584千人となったほか、スポーツ施設等の利用件数も12,154件と年度計画を上回った。
(詳細については、2. (1) の④「入園者数増加に向けた努力」に記載)

この結果、平成19年度の「公園入場料等収入」は、1,381百万円となり、年度計画(1,311百万円)に対し70百万円(5.3%)上回った。

これは、上記のイベント効果や広報活動の強化により来園者が増えたため、入場料収入や駐車場収入が増加したほか、万博記念競技場等の使用料収入も増加したこと等によるものである。

19年度公園入場料等収入 (単位: 百万円)

実績 ①	計画 ②	差 (①-②)	達成率
1,381	1,311	70	105.3%

- 今中期計画における「公園入場料等収入」の実績(期間中の平均)は、1,282百万円となり、基準となる平成14年度実績額(1,210百万円)を上回った。

公園入場料等収入の推移 (単位: 百万円)

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	計	平均 (①/5)	達成率 (②/③)
1,219	1,193	1,276	1,340	1,381	①6,409	②1,282	105.9%
中期計画(平成14年度の実績) ③						③1,210	

- 平成19年度の計画に対する実績(第1号勘定と第2号勘定の合計)については、予算ベースでは収入99%、支出90%、収支ベースでは、収益101%、費用97%、当期総利益396%、資金計画ベースでは、資金収入・支出とも107%となっている。(詳細は別紙3)

- 実績の経年比較(同)については、次のとおりである。(詳細は別紙4)

・予算ベース (単位: 百万円)

	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度
収入	2,036	4,664	4,304	4,366	3,706
支出	1,674	4,369	4,235	4,020	3,331

・収支ベース (単位：百万円)

	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度
収 益	1,866	3,702	3,595	3,588	3,552
費 用	1,628	3,490	3,410	3,335	3,401
当期総利益	238	212	185	307	150

・資金計画ベース (単位：百万円)

	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度
資金収入・ 支出	5,498	9,180	11,951	8,298	8,350

- 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較(同)については、次のとおりである。(詳細は別紙5)

・貸借対照表 (単位：百万円)

	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度
資 産	149,710	149,738	149,172	149,071	148,812
負 債	8,908	8,724	7,973	7,620	7,211
純資産	140,802	141,015	141,199	141,451	141,602

・利益の処分に関する書類 (単位：百万円)

	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度
利益処分額	238	212	185	307	150

- 第2期中期計画においては、環境・公園に関連する事業等への助成に重点化するとともに、万博記念公園の施設整備や低廉な公園入場料維持のため、公園事業への繰入れを増やすこととしており、運用基盤を強化する必要があるため、各事業年度において運用利益金の未使用分を積立金として計上し、中期目標期間中の当該積立金の合計額226百万円について、基金への組入れを行うこととしている。

4. 短期借入金の限度額

短期借入の実績はない。

5. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

重要な財産の譲渡、処分の実績はない。

6. 剰余金の使途

第1号勘定、第2号勘定ともに剰余金の使用の実績はない。

7. その他財務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 人事に関する計画

① 職員の資質向上のための研修計画

- 「中期研修計画」に基づき、「平成19年度研修計画」を策定し、職員研修を実施した。

平成19年度の研修実績は次表のとおりであり、研修の積極的な実施及び参加率の向上に努めた結果、平成19年度年度計画の目標（130人以上）を達成した。中期計画の目標である研修受講者数（延べ424人以上）を大幅に上回り、延べ937人となった。

また、研修効果の評価を行うため、すべての研修について受講者から研修受講報告書を提出させ、研修効果の把握に努めた。

平成19年度研修計画の実施状況

区 分	内 容	対 象	参加 人数
[階層別研修] ①新規採用職員研修	採用（国・大阪府からの転入）時に、 機構職員として必要な基礎知識を養成 する。	新規採用職員	人 4
[専門・特別研修] ①個人情報等の管理 に関する研修会	個人情報保護制度についての基礎知識 の習得及び機構が保有する個人情報の 適切な管理に関する方法を職員に周 知徹底する。	全 職 員	48
②評価者研修	人事評価制度への理解を深め、より公 平な人事評価の実施と積極的な部下育 成への取組を図る。	課長級以上の 第一次、第二 次評価者	13
③パソコン研修	情報機器等の操作方法等（パワーポイ ント）を習得し、事務事業の効率化に 資する。	全 職 員	15
⑥職種別研修	庭園の伝統的技法の承継等を図る造園 業人材育成研修等各職種別のノウハウ を習得する。	担 当 職 員	32
⑦戦略的広報・PR研 修	的確な報道対応やタイムリーで効果的 な広報活動を行うための理論や技術を 習得する。	担 当 職 員	2

⑧資金運用研修	リスクをはじめ留意すべき事項、債券運用に必要な知識・運用のノウハウを習得する。	担当職員	2
⑨人権研修	人権問題全般についての理解を深め、人権意識の高揚を図る。	全職員	26
⑩人権研修(公正採用 選考人権啓発推進員 研修ほか)		担当職員	4
計			146

研修の実施結果

実績 ①	計画 ②	差 (①-②)	達成率
146人	130人	16人	112.3%

研修受講者数の中期計画に対する達成状況

15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	計 ①	中期計画 ② (5年間)	達成率(①/②)
161人	250人	191人	189人	146人	937人	424人	221.0%

② 人員計画

- すでに中期計画の目標数である常勤職員数 49 名を達成しているところであるが、平成 18 年度末に定年退職した職員(運転手)の業務をアウトソーシングすることにより、新規採用を見合わせ、平成 19 年 4 月以降は 48 名体制で業務を行った。

(2) 公園整備に関する計画

①公園整備等に関する計画

- 公園利用者の利便性向上、安全確保に加えて、省資源・省エネルギー及び管理コストの軽減のために、別紙 6 のとおり総額 529 百万円の整備工事を実施した。
主な工事の概要は次表のとおりである。

目的	工事名	概要
安全確保	南地区車両進入路整備工事	南スポーツ施設地区で増加した利用者及び歩行者（散歩等）の安全確保の観点から、歩車道分離を図るため、車両進入路整備工事を行った。
	万博公園西駐車場区画線整備工事	駐車のための区画線(ライン)及び誘導標示の引き直し工事を行った。
バリアフリー	けやきの丘便所バリアフリー改修工事	「けやきの丘」のトイレをユニバーサルデザインによる「みんなのトイレ」に改修した。(一部増築)
	園内誘導ブロック設置工事	万博記念公園駅～中央ゲート、公園東口駅～万博記念競技場、日本庭園前ゲート～国立民族学博物館～日本庭園・大阪日本民芸館入口への誘導ブロックの設置工事を行った。
	自然文化園園路補修工事 (日本庭園駐車場前)	バリアフリー及び環境保全の観点から、老朽化している主要園路を透水性舗装に改修した。
	上津道土舗装整備工事 (梅園～西大路広場)	主要園路としては唯一の土舗装路であるが、凸凹や水溜りができていることから、土舗装による再舗装工事を行った。
省資源・省エネルギー・管理コスト軽減	自然文化園外灯整備工事	自然文化園西エリアの水銀灯 156 基を撤去し、玉切れせず消費電力も少ない無電極放電灯 51 基を設置した。
	中央地区受変電設備改修工事	関西電力との責任分界の見直しを行うこと等により、万博記念ビル及び中央駐車場付近の地区のキュービクルの統廃合を図り、4 基から 1 基に減じた。
集客	花の見どころ整備工事	水すましの池周辺への原種シクラメンの花壇の設置、つばきの森の拡充、日本庭園現代地区への藤棚の増設等の整備を行った。
施設の機能維持	少年野球場スタンド屋根防水その他改修工事	スタンド屋根の防水劣化による雨漏りを防止するための防水工事及びダッグアウト改修工事を行った。
	万博記念競技場雨天走路改修工事	老朽化している競技場内雨天走路のウレタン舗装の改修工事を行った。
	万博記念競技場空調機改修工事	経年劣化による能力低下や故障が生じている空調機の取替工事を行った。
	弓道場内外装他 2 件改修工事	弓道場・砂の広場休憩所・西ロゲートについて、美観回復を行うとともに、建物の耐久性を維持するため外装等の塗装改修工事を行った。

	テニスコート改修工事	アンツーカー（2面）の打換え工事を行った。
	自然文化園土壌改良工事	大阪中央環状線沿い法面の桜の樹勢回復を図るため、土壌改良等の工事を行った。
地域社会の環境整備への対応	下水道分流化整備工事	平成17年度からの継続事業であり、今年度は国立民族学博物館・レストハウス周辺に污水管を敷設した。

②施設及び設備に関する計画

- 別紙6のとおり

平成19年度日本万国博覧会記念基金事業 万博公園賑わい創出支援事業

(単位:千円)

番号	事業名 事業者名(役職名・代表者名)	総事業費	申請額	交付決定額	交付決定日	参加 (予定)数	事業概要
1	友愛のサウンド 関西吹奏楽連盟 (理事長)松平 正守 【大阪】	7,250	4,600	4,600	(5月8日)	6,900 (6,000)	関西2府4県の若人が吹奏楽の演奏と演技を通じて社会の皆様方と心を通じ合わせ、関西文化の更なる向上に寄附することを目的に、1960年代から70年代にかけて中学生吹奏楽の日本人を競い合った奏者が一堂に会し、半世紀を経た友情のハーモニーを奏するものである。 【会場】万博記念公園 【実施期間】平成19年5月13日 【入園者数】17,331人
2	モバイル ネイチャー ラリー in 万博公園 特定非営利活動法人 ウェアラブルコンピュータ研究開発機構 (理事長)塚本 昌彦 【大阪】	10,300	5,000	5,000	(5月8日)	1,036 (200)	携帯電話の読み取り機能(QRコード)を利用して、万博開催当時のパビリオンの様子などの情報を参加者の携帯電話に提供し、数箇所のチェックポイントを巡りながら園内を散策するスタンプラリーを行った。 【会場】万博記念公園 【実施期間】平成19年6月3日 【入園者数】11,498人
3	「染織の楽しさ」を語る記念公演会並びに秋季開催「倉敷民藝館名品展」 財団法人 大阪日本民芸館 (理事長)岡田 信吾 【大阪】	4,850	2,000	2,000	(5月8日)	1,468 (1,600)	著名な現代染織作家を講師とする対談形式の記念講演会を開催するとともに、倉敷民藝館所蔵の名品展示を行うものである。 【会場】国際児童文学館、大阪日本民芸館 【実施期間】平成19年5月13日、9月15日～12月9日
4	万博日本庭園における国際庭園文化交流事業「世界の中の日本庭園：現在・過去・未来」 日本庭園・歴史遺産研究センター (所長)尼崎 博正 【京都】	2,864	1,682	1,682	(6月25日)	211 (95)	アメリカのラトガーズ大学教授等により、海外における日本庭園の調査事例を紹介するとともに、万博日本庭園において海外の技術者、学生を対象に庭園管理実習などを開催する。また、日米の学生を中心に万博日本庭園の魅力分析と将来展望へのワークショップを行い、今後の万博日本庭園の賑わい創出に向けての専門的提案を行う。 【会場】日本庭園・国立民族学博物館 【実施期間】平成19年8月20日～8月25日
5	世界の絵本の現在(いま) 財団法人 大阪国際児童文学館 (理事長)松居 直 【大阪】	1,736	1,157	1,157	(6月25日)	169 (100)	国連館跡地に建設された児童文学館において、アジアの絵本を展示し、参加者に絵本への理解を促すことにより、参加する多数の外国人に子どもの本の歴史と現状を知りうる国際的な催しを行い、万博記念公園全体の国際的イメージを強調するものである。 【会場】大阪府立国際児童文学館 【実施期間】平成19年8月28日
6	ポップアスリートカップ開会式・サマーベースボールフェスティバル2007 ソムニトピア・ジャパン株式会社 (代表取締役社長)横尾 寿浩 【大阪】	9,292	5,000	5,000	(6月25日)	10,000 (3,000)	スポーツを通じて子どもたちの健全な育成に尽力する保護者支援のために「ポップアスリート」を開設し、それへの参加者が一堂に集まる機会を提供し、情報交換や交流を広げるイベントを開催する。当イベントの開催により、参加者達に万博公園の魅力の再発見を図るものである。 【会場】万博記念公園(スポーツ広場・お祭り広場) 【実施期間】平成19年7月16日 【入園者数】7,463人
7	社団法人化10周年記念 日露交歓コンサート(万博会場) 社団法人 国際音楽交流協会 (理事長)指宿 修子 【京都】	9,561	3,600	3,600	(6月25日)	390 (演奏者10)	ロシア・ピアノのメッカ「チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院」の教授や卒業生など、世界中の一流音楽家を日本へ招聘し、コンサートや国際文化交流に関心ある者等による交歓を図るクラシック音楽の普及などに寄与するイベントを会場無料で開催する。 【会場】万博記念公園・ホテル阪急エキスポパーク 【実施期間】平成19年9月30日 【入園者数】930人
8	万博記念公園における統合医療によるがん患者のスピリチュアルケア 有限会社 統合医療企画 (代表取締役社長)持田 聖司 【京都】	4,581	2,747	2,747	(6月25日)	9 (10)	がん患者を対象にした新しいタイプの統合医療により、参加者のスピリチュアリティ(精神性)向上や免疫能増強などを図ることを目的とし、万博記念公園で森林療法や園芸療法などの統合医療を実施するものである。 【会場】万博記念公園・ホテル阪急エキスポパーク 【実施期間】平成19年8月1日～12月31日(12日間)
9	ロハス フェスタin万博 株式会社 シティライフNEW (代表取締役)池谷 綱記 【大阪】	7,875	5,000	5,000	(6月25日)	10,000 (30,000)	健康と環境、持続可能な社会を心掛ける生活スタイル(ロハス、lifestyles of health and sustainability)として、「自然素材」「人の交流」などを地域に提言していくことを目的に、日常生活と万博記念公園の関わりを新たな発見の一助として実施するものである。また、記録誌をまとめ、万博記念公園の魅力を含め、広く情報発信するものである。 【会場】万博記念公園 【実施期間】平成19年10月8日 【入園者数】10,814人
10	ホップ・ステップ・マーチングin万博2007 関西吹奏楽連盟 (理事長)松平 正守 【大阪】	4,680	2,920	2,920	(9月20日)	1,025 (500)	マーチングを愛し吹奏楽に青春を打ち込む若人が吹奏楽を通して、コンサートとマーチング、チャリダー、カラーガード等を演奏・演技することにより万博記念公園に來園される皆様との交流を図るとともに、関西のマーチング指導者やメンバーの育成をするものである。また、万博記念公園で互いの技術の向上を目指し、マーチング仲間との輪を広げ、関西文化の更なる発展に寄与することを目的に事業を実施するものである。 【会場】万博記念公園 【実施期間】平成19年10月8日 【入園者数】10,814人
11	チャイケモからのメッセージ 特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス (理事長)楠木 重範 【大阪】	2,926	1,684	1,684	(9月20日)	503 (500)	小児がんの子ども達が化学療法中でも子どもらしく生活できるような環境と家族の暮らしを大切に専門病院の設立を目指して、広く活動を周知するイベントを「笑顔で家族と過ごす」というコンセプトにぴったりな万博記念公園で開催するものである。 【会場】万博記念公園 【実施期間】平成19年11月17日
12	Illuminight Banpaku World Illumination Expo 日本イルミネーション協会 (理事長)三浦 良広 【大阪】	10,640	5,000	5,000	(9月20日)	16,101 (10,000)	冬季の夜間演出として、万博当時のパビリオンをモチーフにしたイルミネーションの下で、ハンドベル等、あまり親しむ機会が少ない楽器の演奏を交え、冬に楽しめる万博記念公園の魅力の一つとして展開するものである。さらに、音楽などを通して人物交流や文化交流の促進を図るとともに、毎年継続することでイルミネーションを充実させ、万博記念公園を通じ万博の偉業を後世に伝えるべくイベントを開催するものである。 【会場】万博記念公園 【実施期間】平成19年12月15～16・22～24日
13	祝 国立民族学博物館開館30周年 民博・万博へ行く！ 財団法人 千里文化財団 (理事長)小林 庄一郎 【大阪】	9,095	4,307	4,307	(9月20日)	571 (500)	豊かな自然環境の中に文化施設が共存する万博記念公園の特徴を来場者にわかりやすく提示し、利用価値を再認識してもらうことを目的に、民族学博物館では市民目から積極的に関わっている活動の紹介などの講演会や見学会を行う。また、万博記念公園では、小型の手回しオルガンの実演と演奏体験を行うものである。 【会場】国立民族学博物館・万博記念公園 【実施期間】平成19年11月17～18日
14	国立民族学博物館開館30周年記念事業 みんなくシネマ・科学映画祭「人と科学をつなぐ世界の映像」と「外国から見た日本文化」 財団法人 千里文化財団 (理事長)小林 庄一郎 【大阪】	6,213	3,154	1,500	(12月7日)	426 (810)	国際理解と国際交流の促進普及を目的に様々なテーマで日本を描いた映画を紹介し、日本文化を見直す機会を提供するとともに日本の先端科学研究の映画を紹介する。また、欧米で制作した科学映画作品を上映し、海外の科学映画研究者・製作者を交えたシンポジウムを開催する。 【会場】国立民族学博物館 【実施期間】平成20年1月12～13日、2月9～10日
15	ABCラジオスプリングフェスタ2008「異文化交流&環境ワールドキャンパス」事業 朝日放送株式会社/ラジオ局 (ラジオ局長)松岡 隆夫	8,200	5,000	4,000	(12月7日)	40,000 (40,000)	万博記念公園においてABCラジオスプリングフェスタのプログラムを基盤として、世界20ヶ国40名の青少年が一同に介し、自国や身近な環境問題への取組を発表するなどの異文化交流を深めるものである。また、園内施設を回るオリエンティングや万博公園のNPO団体との提携で環境プログラムの体験などを実施するものである。 【会場】万博記念公園 【実施期間】平成20年3月16日 【入園者数(当日無料)】67,449人
採択 計15件		100,063	52,851	50,197		88,809 (93,325)	

【助成効果の基本的考え方】

万博公園を活用した新たな魅力創造と先駆的なプログラム開発に関する事業
万博公園の特性を活かし、集客力の向上に資する事業
万博遺産の継承を図る事業(公園外可)
公園内及びその周辺施設等と連携した事業
万博公園において、継続的かつ安定的に実施できる事業

参加者数は、実績報告等に基づくもの。入園者数は、自然文化園のもの。

平成 20 年 3 月 31 日現在

(敬称略)

日本万国博覧会記念基金事業審査会委員

任期：平成 19 年 12 月 15 日～平成 21 年 12 月 14 日

委員長	宮原 秀夫	独立行政法人情報通信研究機構理事長 大阪府立産業技術総合研究所所長
委員	上田 みどり	広島経済大学教授
委員	大塚 和夫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化 研究所所長
委員	浜 矩子	同志社大学大学院ビジネス研究科教授
委員	堀井 良殷	財団法人大阪 21 世紀協会理事長
委員	矢内原 千鶴子	大阪薬科大学理事長
委員	山崎 隆一郎	外務省特命全権大使(関西担当)

審査会専門委員会委員

任期：平成 18 年 12 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日

人文・社会 部会	部会長	木津川 計	雑誌「上方芸能」代表
	委員	河内 厚郎	『関西文学』編集長
	委員	小林 繁樹	国立民族学博物館情報管理施設長・教授
	委員	弘本 由香里	大阪ガス株式会社工ネルギー・文化研究所 客員研究員
	委員	山田 陽一	京都市立芸術大学音楽学部教授
理工部会	部会長	西尾 章治郎	大阪大学理事・副学長
	委員	高橋 憲明	大阪市立科学館館長
	委員	田中 弘美	立命館大学情報理工学部知能情報学科教授
	委員	堤 誉志雄	京都大学大学院理学研究科教授
	委員	山近 洋	株式会社住化技術情報センター副社長
生物部会	部会長	高井 義美	神戸大学大学院医学系研究科教授
	委員	杉村 和朗	神戸大学大学院医学系研究科教授
	委員	鍋島 陽一	京都大学大学院医学研究科教授
	委員	花房 俊昭	大阪医科大学第一内科教授
	委員	藤本 豊土	名古屋大学医学部・大学院医学研究科教授
国外事業 者部会	部会長	野上 紀夫	大阪文具工業連盟専務理事
	委員	岩山 仁	株式会社リクレア取締役
	委員	杉原 充志	羽衣国際大学産業社会学部キャリアデザイン 学科教授

予算、収支計画及び資金計画の計画に対する実績

(1) 予算の状況

第1号勘定（公園事業）

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
収入				
業務収入	10,912	2,434	2,484	102%
その他の収入	6,047	967	894	92%
計	16,958	3,401	3,378	99%
支出				
管理運営費	11,763	2,576	2,510	97%
人件費	2,595	579	549	95%
管理諸費	9,168	1,996	1,961	98%
公園整備費	3,191	805	529	66%
その他の支出	826	-	-	-
計	15,781	3,381	3,038	90%

第2号勘定（基金事業）

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
収入				
業務収入	1,809	323	328	101%
その他の収入	2	0	0	39%
計	1,811	324	328	101%
支出				
管理運営費	308	70	57	81%
人件費	272	56	51	91%
管理諸費	36	14	6	41%
基金事業費	1,283	222	205	93%
その他の支出	214	32	31	96%
計	1,804	324	293	90%

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
収入				
業務収入	12,721	2,758	2,812	102%
その他の収入	6,048	967	894	92%
計	18,770	3,725	3,706	99%
支出				
管理運営費	12,071	2,645	2,566	97%
人件費	2,867	635	599	94%
管理諸費	9,204	2,010	1,967	98%
公園整備費	3,191	805	529	66%
基金事業費	1,283	222	205	93%
その他の支出	1,040	32	31	96%
計	17,585	3,705	3,331	90%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

(2) 収支の状況

第1号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	14,446	3,208	3,223	100%
公園事業収入等	11,828	2,677	2,674	100%
財務収益	2,191	422	432	102%
その他の収入	426	108	118	109%
臨時収益	-	-	-	-
計	14,446	3,208	3,223	100%
費用の部				
経常費用	14,219	3,170	3,113	98%
公園事業費等	14,185	3,166	3,091	98%
その他の費用	34	4	22	596%
臨時損失	-	-	0	皆増
計	14,219	3,170	3,113	98%
純利益	227	38	110	290%
目的積立金取崩額	-	-	-	-
総利益	227	38	110	290%

第2号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	1,809	323	329	102%
基金運用収入	1,809	323	329	102%
臨時収益	-	-	-	-
計	1,809	323	329	102%
費用の部				
経常費用	1,802	323	288	89%
基金事業費等	1,734	308	273	89%
その他の費用	68	15	15	100%
臨時損失	-	-	-	-
計	1,802	323	288	89%
純利益	8	-	40	皆増
目的積立金取崩額	-	-	-	-
総利益	8	-	40	皆増

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	16,255	3,531	3,552	101%
公園事業収入等	11,828	2,677	2,674	100%
基金運用収入	1,809	323	329	102%
財務収益	2,191	422	432	102%
その他の収入	426	108	118	109%
臨時収益	-	-	-	-
計	16,255	3,531	3,552	101%
費用の部				
経常費用	16,021	3,493	3,401	97%
公園事業費等	14,185	3,166	3,091	98%
基金事業費等	1,734	308	273	89%
その他の費用	101	19	37	197%
臨時損失	-	-	0	皆増
計	16,021	3,493	3,401	97%
純利益	234	38	150	396%
目的積立金取崩額	-	-	-	-
総利益	234	38	150	396%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

(3) 資金の状況

第1号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
資金収入	23,538	4,857	6,082	125%
業務活動による収入	14,364	3,116	3,439	110%
業務収入	14,297	3,101	3,351	108%
その他の収入	68	15	88	585%
投資活動による収入	7,040	1,300	2,200	169%
財務活動による収入	-	-	-	-
前期よりの繰越金	2,134	442	443	100%
資金支出	23,538	4,857	6,082	125%
業務活動による支出	13,285	2,721	2,754	101%
人件費支出	2,687	543	598	110%
その他の業務支出	10,598	2,177	2,155	99%
投資活動による支出	9,646	822	2,001	243%
財務活動による支出	-	-	-	-
次期への繰越金	608	1,315	1,328	101%

第2号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
資金収入	9,367	2,193	2,268	103%
業務活動による収入	1,809	324	399	123%
業務収入	1,809	324	329	102%
その他の収入	-	-	70	皆増
投資活動による収入	6,562	1,582	1,582	100%
財務活動による収入	-	-	-	-
前期よりの繰越金	996	288	288	100%
資金支出	9,367	2,193	2,268	103%
業務活動による支出	1,823	323	321	99%
人件費支出	375	70	66	95%
その他の業務支出	1,449	253	255	101%
投資活動による支出	6,562	1,400	1,850	132%
財務活動による支出	-	-	-	-
次期への繰越金	982	471	97	21%

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画 A	4月～3月末までの実績	
	4年6か月	19年度	実績額	対A
資金収入	32,906	7,051	8,350	118%
業務活動による収入	16,174	3,440	3,837	112%
業務収入	16,106	3,425	3,680	107%
その他の収入	68	15	157	1,050%
投資活動による収入	13,602	2,882	3,782	131%
財務活動による収入	-	-	-	-
前期よりの繰越金	3,129	729	731	100%
資金支出	32,906	7,051	8,350	118%
業務活動による支出	15,108	3,043	3,075	101%
人件費支出	3,061	613	664	108%
その他の業務支出	12,047	2,431	2,410	99%
投資活動による支出	16,208	2,222	3,851	173%
財務活動による支出	-	-	-	-
次期への繰越金	1,590	1,785	1,425	80%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

予算、収支計画及び資金計画に関する実績（決算額）の経年比較表

(1) 予算

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度	区 分	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度		
収入	業務収入	1,448	2,865	2,805	2,832	2,812	支出	管理運営費	1,298	2,655	2,593	2,550	2,566
	その他の収入	588	1,798	1,499	1,534	894		人件費	321	634	609	578	599
								管理諸費	977	2,022	1,985	1,973	1,967
								公園整備費	206	935	1,324	1,229	529
								基金事業費	139	271	246	210	205
								その他の支出	31	508	72	31	31
計	2,036	4,664	4,304	4,366	3,706	計	1,674	4,369	4,235	4,020	3,331		

(2) 収支計画

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度	区 分	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度		
収益の部	経常収益	1,864	3,692	3,595	3,588	3,552	費用の部	経常費用	1,628	3,485	3,410	3,335	3,401
	公園事業収入等	1,315	2,664	2,649	2,695	2,674		公園事業費等	1,475	3,115	3,086	3,050	3,091
	基金運用収入	214	396	356	331	329		基金事業費等	143	351	306	267	273
	財務収益	282	523	494	436	432		その他の費用	10	19	18	19	37
	その他の収入	53	107	96	126	118		臨時損失	-	5	0	-	0
	臨時収益	3	10	-	-	-		計	1,628	3,490	3,410	3,335	3,401
計	1,866	3,702	3,595	3,588	3,552	純利益	238	212	185	252	150		
						目的積立金取崩額	-	-	-	55			
						総利益	238	212	185	307	150		

(3) 資金計画

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度	区 分	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度		
資金収入	業務活動による収入	1,581	3,828	3,659	3,657	3,838	資金支出	業務活動による支出	1,641	3,455	3,372	3,042	3,075
	業務収入	1,544	3,693	3,550	3,533	3,680		人件費支出	378	763	727	672	664
	その他の収入	37	135	109	124	157		その他の業務支出	1,263	2,692	2,645	2,370	2,410
	投資活動による収入	630	2,904	6,480	3,046	3,782		投資活動による支出	1,409	3,912	6,984	4,525	3,851
	財務活動による収入	-	-	-	-	-		財務活動による支出	-	-	-	-	-
	前期からの繰越金	3,288	2,448	1,812	1,595	731		次期への繰越金	2,448	1,812	1,595	731	1,425
	計	5,498	9,180	11,951	8,298	8,350		計	5,498	9,180	11,951	8,298	8,350

貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較表

(1) 貸借対照表

(法人単位)

(単位：百万円)

区 分		15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度	区 分		15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度
資産の部	流動資産	5,717	7,504	4,649	4,684	4,718	負債・純資産の部	流動負債	1,186	1,385	1,001	901	774
	固定資産	143,994	142,234	144,522	144,386	144,094		固定負債	7,722	7,339	6,971	6,719	6,437
								負債合計	8,908	8,724	7,973	7,620	7,211
								資本金	121,978	121,978	121,978	121,978	121,978
								基金	18,586	18,586	18,586	18,586	18,586
								利益剰余金	238	451	635	887	1,038
								公園整備積立金	-	38	53	-	-
								助成事業積立金	-	2	2	-	-
								積立金	-	199	395	580	887
								当期末処分利益	238	212	185	307	150
						純資産合計	140,802	141,015	141,199	141,451	141,601		
資産計	149,710	149,738	149,172	149,071	148,812	負債・純資産合計	149,710	149,738	149,172	149,071	148,812		

(2) 利益の処分に関する書類

(法人単位)

(単位：百万円)

区 分	15年度 (下期)	16年度	17年度	18年度	19年度
当期末処分利益	238	212	185	307	150
当期総利益	238	212	185	307	150
利益処分量	238	212	185	307	150
積立金	198	197	185	307	150
独立行政法人通則法第44条第3項により主務大臣の承認を受けた額					
公園整備積立金	38	15	-	-	-
助成事業積立金	2	0	-	-	-

19年度は、未承認

公園整備等に関する計画の執行実績

(単位：百万円)

区 域	中期計画 4年6ヶ月 (a)	年度計画 19年度 (b)	実績額 19年度 (c)	年度計画達 成率 (c)/(b)	実績額累計 15～19年度 (d)	中期計画達 成率 (d)/(a)
日本庭園	409	31	19	61%	280	68%
自然文化園	2,183	482	311	65%	2,576	118%
スポーツ施設地区	405	194	134	69%	925	228%
管理サービス地区	194	98	65	66%	441	227%
合 計	3,191	805	529	66%	4,222	132%

平成19年度主要工事一覧

(区域別1千万円以上 単位：百万円)

区 域	工 事 名	金額
日本庭園	小規模工事、設計・監理委託費等	19
	小 計	19
自然文化園	下水道分流化整備工事(その3)	81
	自然文化園外灯整備工事	46
	上津道士舗装整備工事	29
	けやきの丘便所バリアフリー改修工事	18
	自然文化園園路補修工事	17
	その他(小規模工事、設計・監理委託費等)	120
小 計	311	
スポーツ施設地区	南地区車両進入路整備工事	24
	万博記念競技場空調機改修工事	16
	万博記念競技場雨天走路改修工事	16
	万博記念競技場浴槽設置工事	14
	その他(小規模工事、設計・監理委託費等)	63
小 計	134	
管理地区	中央地区受変電設備改修工事	49
	その他(小規模工事、設計・監理委託費等)	16
小 計	65	
合 計	529	

平成19年度年度計画別紙2「施設及び整備に関する計画」注2～3において財源を明示した各工事は全て施工済みであり、本表の実績額に含まれている。

区域・年度区分の関係で、主要工事一覧の金額は契約金額と合致しない場合がある。

なお、財源別の執行金額は、次のとおりである。

第2号勘定からの繰入れ	15百万円	自然文化園土壌改良工事他
長期預り金資産整備事業費	125百万円	中央地区受変電設備改修工事他
投資振替資産整備事業費	100百万円	下水道分流化整備工事(その3)他